



合眾國內國稅年報編纂書

第五編





114  
A 1842  
5 #



合衆  
國稅  
年報  
編纂  
書

第五編

國產免許稅之概要

夫商品ヲ製造販賣スルニ就テ免許狀ヲ申請シ為メニ稅項ヲ納  
メサル可ラサル制ハ既ニ安納女皇ノ治世ニ於テ行ハル、ト雖  
氏之ヲ一般ニ施行スルニ至リシハ千七百八十四年合衆國獨立  
戰爭ノ終ニ臨テピット氏ノ調製セル會計豫算表ヲ以テ始メト  
ス而シテ當時倍稅ヲ課スルハ氏ノ演說ヲ以テ瞭然タリ依テ其  
要領ヲ掲クルト左ノ如シ

今余カ發言スル所ノ者ハ國產稅ヲ課スル物品ノ販賣ニ免許  
狀ヲ附與シ隨テ其稅ヲ課スルニ在リ而シテ此計策ハ持リ國  
產稅局官吏ノ建議ニ出ルノミナラス該品ヲ販賣スル老實ノ  
高賈ニ於テモ亦均シク同意スル所ナリ蓋シ此新稅ニ依テハ

大正十一年四月  
大隈侯爵寄贈



八万磅ヲ收入スヘシト定メ蒸餾者ハ營業工特殊ノ利益ヲ得  
ルヲ以テ大約五十磅ノ免許稅ヲ課シ釀造者釀醋者及ヒ綿布  
印花匠ニハ各々十磅ヲ課スヘシ而シテ此等ノ中間ニ在テ利  
ヲ營ム者ニハ高品販賣ノ多寡ト利潤ノ多少トニ從テ課稅セ  
サル可ラス云々

然ルニ千七百八十四年ノ法令ニ據ルニ免許稅ハ同氏ノ發言ト  
其率ヲ異シ蒸餾者精餾者ニハ一箇年五十磅ヲ收メスシテ其使  
用スル蒸餾器一瓦倫ニ付キ半邊尼ノ割合ニ當ル稅ヲ課シ又釀  
造者ニ八十磅ヲ納メスシテ恰モ今日ニ施行スル所ノ如ク麥酒  
釀造ノ多寡ニ從テ一磅十司令乃至五十磅ノ稅ヲ課シ其麥芽製  
造者ノ如キハ五百五十クラルトル以下ナレハ五十クラルトル  
毎ニ五司令ノ割合ニ當ル免許稅ヲ課セリ而シテ此他ノ定額免  
許稅ハ酒精商賣ニハ五磅今ヤ十磅釀醋者ニハ十磅今ヤ五磅課ス

綿布印花匠ニハ十磅澱粉製造者ニハ五磅葡萄酒汲者ニハ二磅  
柔皮匠ニハ二磅十司令白皮匠ニハ一磅玻璃製造者ニハ十磅ヲ  
課シタリシカ今ヤ蒸餾者乃至釀醋者ノ免許稅ヲ除クノ外ハ悉  
ク之ヲ廢止セリ

其後三年ヲ經テ千七百八十七年ニ至テハ酒精小賣人ノ免許稅  
ヲ改正シテ借店料ノ多寡ニ從テ其率ヲ節依セシカ此法ハ尚今  
日ニ至ルマテ施行スル者ナリ而シテ其主眼ハ**第一**務メテ營業  
ノ多寡ト**第二**借店料ノ多少トニ從テ**第三**稅率ヲ一定スルニア  
リ蓋シ其第一項ハ早既ニ釀造者及ヒ麥芽製造者ノ課稅ニ施行  
スル所ニシテ其後千七百八十九年ニ至テ烟草製造者ニ免許稅  
ヲ課スルニ於テモ亦均シク此法ヲ採用シタリ

既ニ如斯ク國產稅及ヒ海關稅ノ收入ヲ保護センカ為メニ製造  
品ノ多寡ニ從テ免許稅ヲ課スルノ法ヲ設ケ實驗ヲ經ルニ隨テ



之ヲ收入スルノ方法モ亦大ニ簡便ナルニ趣シカ蓋シ其法タル  
實ニ公平均當ナルニ拘ラス當時ニ於テハ漸ク之ヲ製造品ニ施  
行スルニ過キサルノニ故ヲ國産稅ヲ課スル物品ノ配分者ノ如  
キハ概テ所謂犯禁豫防ノ監視ニ屬セシメタリシカ此監視ハ固  
ヨリ課稅ノ事ヲ目的トスルニ非ス唯既稅ヲ豫防スルニ外ナラ  
スレテ其監視タルヤ營業ノ多寡ヲ詳悉スルニ足ルヘキ者ニ非  
サルカ故ニ此免許稅法ヲ稱シテ第三等ト為スモ敢テ不可ナカ  
ルヘシ

之ニ對シテ第二等ノ稅法ト稱スヘキ者ハ酒店免許稅ナリトス  
此稅ハ特ニ酒精ヲ小賣スルカ為メニ課スル者ニシテ其收入額  
ハ大約六十万磅ニ至ル而シテ營業ノ多寡ニ比スレハ稅額ヲ收  
ムルノ多キト人民一般ニ關係ノ大ナルトニ依リ此稅ハ古來ヨ  
リ幾分カ納稅者ノ貧富ニ從テ其負擔ヲ均分スルノ功アリトス

ルカ如シ

従前施行スル所ノ免許稅ハ多クハ物品ノ製造若クハ販賣上ニ  
課スルノ國産稅ト共ニ之ヲ廢止セリト雖氏千八百三十四年ニ  
於テ國産稅審査委員カ一タヒ免許稅ノ大ニ政府ノ歲入ヲ補フ  
ニ足ルヘキ所以ヲ開陳シテヨリ幾分カ政府ノ治計ヲ影響シ以  
テ石鹼及ヒ製紙等ノ免許稅ヲ廢止スルニ至ラサリキ將タ後葉  
ニ纂輯スル所ノ免許稅ハ輒近特ニ議院ノ注意ヲ要シ衆庶ノ利  
害ニ関スル最モ大ナル者ノニ限ルカ故ニ今ヤ之ヲ賦課スル  
モ別ニ解釋スルニ足ラサル免許稅ノ種類ト課稅ノ年号及ヒ其  
稅率トヲ併セテ左ニ記載セサル可ラス







蒸餾器製造者	蘇格蘭及 愛爾蘭	千八百二十二年	十司令
蒸餾器ヲ使用スル賣藥者		千八百四十六年	十司令
烟草製造者		千七百八十九年	及ニ其端數毎ニ五磅五司令ノ増 秤量ニ万封度以下ニハ五磅五司 令ヲ課シ此量ヲ超レハ二万封度 及ニ其端數毎ニ五磅五司令ノ増 ヲ課シテ十萬封度ニ至ル
烟草販賣者		千七百八十九年	五司令三邊尼
釀醋者		千七百八十四年	五磅五司令

國產免許税ニ関スル諸法令ハ千八百二十五年ニ於テ纂輯シテ  
 一ト為シ今日ニ至ルマテ之ヲ施行ス又従前印稅局ノ主管タル  
 免許税ハ此時ニ至テ始メテ國產稅局ノ所轄ニ歸シ而シテ其特  
 別ノ法令ノ如キハ之レヲ施行スルノ日タルヤ甚タ悠久ナリト  
 雖氏今日ニ至ルマテ其効ヲ有スル者ナリ蓋シ近年ニ及ニテ新  
 タニ制定スル所ノ法令ハ當時ニ於テ完全無缺ナルニ非ス尔後  
 多少ノ改正ヲ經テ始メテ備具スルニ至リシナリ

釀造免許税之事

前既ニ記スルカ如ク釀造免許税ハ千七百八十四年始メテビツ  
 ト氏ノ施行スル所ニシテ當時課税ノ方法ハ釀造シタル麥酒ノ  
 量ニ率由スル猶今日施行スル所ノ者ニ異ナラス即チ千パーレ  
 ル以下ノ釀造者ニシテ所謂「テール」麥酒ヲ釀造スル者ニハ一  
 磅ヲ課シ激烈ノ麥酒ヲ釀造スル者ニハ一磅十司令ヲ課シ千パー



一レレ乃至二千「バ」レレラ醸造スル者ニハ二磅ヲ課シタリキ  
千八百十五年ニ於テハ「テ」レブル麥酒ノ醸造免許稅ヲ増シテ二  
倍トナシ其激烈ノ麥酒醸造免許稅ノ如キハ従前ノ半額ヲ加ヘ  
タリシカ千八百二十四年ニ至リテハ二十「バ」レレ以下ヲ醸造  
スル者ニハ一司令ヲ課シ二十「バ」レレ乃至五十「バ」レレノ間  
ニハ一磅五十「バ」レレ乃至百「バ」レレノ間ニハ一磅十司令百  
「バ」レレ乃至千「バ」レレノ間ニハ二磅ヲ課シ而シテ千「バ」レ  
ルニ超過スル麥酒醸造者ニハ猶従前ニ均シキ稅ヲ課シタリ然  
ルニ其翌年ニ及テ免許狀ノ數ハ四千零七十五枚ヨリ頗ニ増加  
シテ二万六千二百五十二枚トナリシカ憶ニ此増加ハ稅率ノ低  
減スルカ為メニ非ス必ス他ノ原因アリテ然ルヘシト雖氏如斯  
キハ之ヲ今日ニ推究スルニ由ナシ  
千八百三十年麥酒販賣ノ日々ニ繁盛ニ赴クト麥酒稅ノ廢止トニ

依ニ醸造者ノ員數ヲ増加シテ三万六千五百五十名ニ至リ尋テ  
千八百三十八年ニ於テハ實ニ四万九千二百二十八名ノ多キニ  
及ヘリト雖氏其後ニ至テハ年ニ若干名ヲ減スルモ敢テ増加ス  
ルヲ見ス

千八百三十年前ニ在テ麥酒醸造免許稅ハ醸造ノ量ニ從テ賦課  
スル所ノ麥酒稅ニ基テ之ヲ課スルカ故ニ其額ヲ定ムル極メテ  
容易ナリシカ千八百三十年第十月十日麥酒稅ヲ廢止スル以來  
ハ一ニ従前ノ法ニ從テ課スルニ由ナシ然リト雖氏今ニシテ全  
ク收稅吏員ノ監視ヲ廢セハ或ハ麥芽ニ代用スルニ他ノ物品ヲ  
以テスルアラシクテ恐ルカ故ニ臨時該吏員ヲシテ監視セシ  
メタリ是當時本寮ニ於テハ抑々醸造免許稅ノ率タル實ニ適當  
ニレテ重稅ト稱スヘキニ非ルヲ以テ苟モ他ノ目的ヲ為メニ監  
時收稅吏員ノ監視スルアラハ醸造者ノ敢テ納稅ノ額ヲ偽ルヲ



得サルヘシト思惟スルニ依ルナリ

千八百三十年ヲ以テ制定セル税法ハ概テ現今施行スル所ノ者ニ異ナラス蓋シ方今ノ税法ニ據ルニ麥酒醸造者ハ免許税ヲ課スルノ點ヨリシテ麥芽ニ「ブツセル」ヲ以テハ必ス麥酒一「バール」ヲ醸造スルヲ得ヘシト定認セラル且醸造者ハ麥酒醸造者手スル二十四時前預メ其時日ト為メニ「靡消スル麥芽ノ量及ヒ穀物ヲ變シテ新酒ト為スニハ幾日ヲ費ヘキ乎」ヲ報告セサル可ラス是ニ於テカ收税吏員ハ自カラ臨監シテ其「靡消スル所ノ麥芽ハ幾許ナルヤ」ヲ測ルヲ得ヘキ也

千八百四十七年醸造者ニ許スニ麥酒醸造ノ為メニ砂糖ヲ「靡消スルヲ得ヘキ」ヲ以テスルノ時ニ於テモ亦同一般ノ規則ヲ施行シ砂糖五十封度ハ麥芽ニ「ブツセル」即チ麥酒一「バール」ニ比均スヘシト定メ千八百五十四年ニ於テハ記録ノ目的ヨリシテ麥

酒ノ醸造ニ砂糖ヲ「靡消スル者」ニ一磅ノ定額免許税ヲ課シタリ千八百六十二年前ニ在テ醸造免許税ニ依テ收入スル所ノ平均額ハ實ニ僅少ニシテ此年第三月三十一日ヲ以テ終ル年度間免許状ヲ附與スル醸造者ノ員數ハ三万八千二百七十六名ニシテ收税額ハ七万七千三百零七磅十三司令ナリシカ故ニ醸造者一名毎ニ二磅餘ニ過キス

千八百六十三年ニ於テハ苦草税ニ依テ收ムル所ノ税額ヲ得ント欲スルノ意匠ヲ以テ從來ノ醸造免許税ヲ改正シタリレカ蓋シ當時ノ改正案ニ據ルニ麥芽一「ブツセル」ハ苦草一「封度」ヲ「靡消シ又麥酒一「バール」ニハ二封度ヲ「苦草」ニ封ノ税ヲ「靡消スルノ平均ナリトシ醸造麥酒ノ量ニ苦草税ヲ加算シテ醸造免許税ノ率ヲ定メタリト雖モ政府ニ於テハ為メニ多少ノ收入額ヲ減シ實ニ當時ニ在テモ亦必ス其額ノ減却スヘキヲ臆想スル者ナキニ



非ス而シテ今之ヲ昨年間に徴スルニ苟モ昔草稅ヲ廢止スル  
 ナク連綿トシテ今日ニ存セシメハ其廢消ノ量ハ大約四千九百  
 万封度ニシテ三十万六千磅ノ收稅額ニ至ルヘク又同量ノ麥酒  
 ニ依テハ従前ノ免許稅九万六千磅ヲ得ヘク而シテ其總計ハ實  
 ニ四十万二千磅ニ至ルヘキニ拘ラス當時釀造免許稅ニ依テ收  
 ムル所ノ額ハ僅ニ三十五万五千六百七十二磅ニ過キサリキ  
 千八百六十九年第三月三十一日ヲ以テ終ル年度間ニ附與シタ  
 ル免許稅ハ三万五千六百六十四枚ニシテ其稅ハ一枚毎ニ殆ン  
 ト十磅ノ平均ナリトス將タ千八百六十二年ノ改正ニ依テハ著  
 ルク免許狀ノ數ヲ減スルニ至ラサリシハ當時低減ナル免許稅  
 ノ率ヲ變更スル無キカ故ナリ蓋シ方今施行スル所ノ免許稅ハ  
 免許狀ヲ附與スルノ初年ニ於テ十二司令六邊尼ヲ課シ一年ヲ  
 過ニ釀造ノ麥酒二十「バ」レ「ル」以上ナレハ左ノ比例ニ從テ之ヲ

課

翌年ニ釀造スル麥酒ノ量前年ニ均シク二十「バ」レ「ル」ニ超ヘ  
 サレハ

十二司令六邊尼

二十「バ」レ「ル」乃至五十「バ」レ「ル」ニハ

一磅七司令

五十「バ」レ「ル」乃至百「バ」レ「ル」ニハ

二磅

百「バ」レ「ル」乃至千「バ」レ「ル」ニハ五十「バ」レ「ル」及ヒ其端數毎  
 ニ十五司令ヲ増課シ千「バ」レ「ル」乃至五万「バ」レ「ル」ニハ五十  
 「バ」レ「ル」毎ニ十四司令、五万「バ」レ「ル」以上ニハ五十「バ」レ「ル」  
 毎ニ十二司令、六邊尼ヲ増課ス

千七百八十四年ニ施行スル免許稅ノ最モ昂キハ麥酒四万「バ」



レルニ超過スル者ニハ五十磅ニシテ千八百二十五年ニ於テハ  
七十五磅ナリシカ方今ニ至テハ五万バールニ釀造スル者ニ  
ハ實ニ七百零一磅十司令ヲ課シ此量ニ超過スル者ハ更ニ其比  
例ニ從テ増稅ヲ課ス

方今施行スル所ノ釀造免許稅ハ尚未タ重稅ト稱スヘキノ域ニ  
至ラス又釀造者ヲシテ之ヲ嫌避セシムルニ足ラスト雖氏今日  
ノ收稅法ハ猶之ヨリ増重ナル稅率ヲ課スルニ於テ充分ナリト  
ハ認ム可ラサルナリ將タ昔日ノ釀造免許稅ハ特リ大額利顛ノ  
ニニ施行セシカ之ヲ合衆王國內ニ均一スルニ至リシハ千八百  
二十五年以降ニテ在リキ

千八百二十五年前愛爾蘭ニ於テハ印紙ニ依テ此種ノ稅ヲ課セ  
シカ其極ヤ他ノ免許稅ニ於ケルカ如ク大ニ人民ヲ壓制スルノ  
狀ヲ呈シタリ今茲ニ千八百二十二年愛爾蘭ニ於ケル釀造免許稅

ノ率ヲ掲クルト左ノ如シ

都伯林「ゴーク」<sup>ク</sup>「ラートル」<sup>ク</sup>「ラルド」<sup>ク</sup>及ヒ「リタリツク」ニ於テハ

五十二磅十司令

此場所ヨリ二里以内ノ地ニ於テハ

三十一磅十司令

都伯林ヨリ五里以内ノ地及ヒ法令ニ明記スル二十七箇所ヨ  
リ一里以内ノ地ニ於テハ

二十六磅五司令

此他ノ場所ニ於テハ

二十一磅

國產稅ヲ課スル飲料ノ販賣免許稅<sup>國產稅ヲ課スル飲</sup>

<sup>ニ</sup>外國製葡萄酒<sup>第三</sup>內國製葡萄酒<sup>第一</sup>  
<sup>三</sup>麥酒及ヒ<sup>二</sup>林檎酒等ヲ總稱シテ云フ



此總稱中ニ含有スル免許税ノ種類ト免許ヲ得テ營業スル高賣ノ員數トヲ左ニ開列ス

	高賣ノ員數	免許税額
酒精販賣者	五、八九四	七五、一八二
麥酒販賣者	五、九五二	二〇、六二六
外國製葡萄酒販賣者	三、六三九	四一、二〇二
及ヒ其製造者	一、二三	六五九
酒店ノ持主	九八、〇〇九	九二四、一四三
麥酒店ノ持主	九二、五九〇	一八三、〇一六
葡萄酒ノ持主	二、九七四	一一、四一八
葡萄酒ノ小賣人	四、七八〇	一一、八七六
内國製葡萄酒ノ小賣人	九、〇二四	一〇、四〇七
國産稅ヲ課スル飲料	三、七四	四〇、八

一、一、フル麥酒販賣者

二、七二〇

七三〇

麥酒醸造者ニシテ之ヲ販賣スル者

一七

九三

通計

一八六、〇九六

一、二八六、七五九

抑々此等ノ免許税ニ関シテハ衆庶ノ疑難ヲ生スルヤ久矣故ニ今備ニ其性質ヲ詳陳スルハ敢テ無益ノ業ニ非ルヲ信ス然ルニ此等ノ免許税ハ或ハ警視ノ管理ニ屬シ或ハ本寮ノ所轄ニ屬スル者甚タ多シ而シテ今ヤ警視ニ関スル所ノ規則ヲ列叙スルハ實ニ本寮ノ旨趣ニ非スト雖氏既ニ該局ヲ經テ本寮ノ免許狀ヲ附與スル以上ハ其概畧ヲ撮摘シテ茲ニ掲クルハ亦止ヲ得サルニ出ル者ナリ

左ノ數項ハ千八百六十三年「スリ」グ氏カ國産稅ヲ課スル飲料販賣免許税ノ改正案ヲ起草スルニ當リ從來專ラ英倫ニ於テ施行スル警視規則ヲ纂輯セル者ヲ拔萃スル所ニ係ル



義徳瓦六世第三十五章第五六款ノ法令ニ據ルニ夫通常暴飲  
酒樓ト称呼スル麥酒店及ヒ他ノ酒店ニ於テ人民相會シテ雜  
選ヲ極メ騷擾ヲ醸スノ弊タルヤ全國ノ治安ヲ妨害スル勢シ  
トセス故ニ此等酒店ノ持主タラン者ハ必ス警視官二名ノ連  
署セル免許状ヲ請ハサル可ラス又該警視官ハ免許状ヲ賦與  
スルニ當リ各持主ヲシテ將來雜選ヲ極メ醸スノ事ナキヲ保  
証セシメサル可ラス云々ト然ルニ此法令ハ惹爾日二世第二  
十八章第二款ヲ以テ擴充シ凡警視官ノ任所ヨリ隔絶スル傳  
舎ノ持主ニ免許状ヲ附與スルハ大ニ不便アルヲ免レサルカ  
故ニ尔後傳舎營業ノ免許状ハ該持主ノ住居スル区内ニ勤仕  
スル警視官ノ通常會ニ於テ之ヲ附與セサル可ラストノ令ヲ  
發シタリ蓋シ此二法令ハ尋テ之ヲ廢止セリト雖モ傳舎營業  
ノ免許状ハ猶今日警視官ノ特別會ニ於テ之ヲ賦與ス

傳舎營業免許状ハ毎年之ヲ附與シ其之ヲ附與スルト否トハ  
一ニ警視官ノ權内ニ在リ而シテ此免許状ヲ請求スルヲ得サ  
ル者ハ唯地方官吏及ヒ法官ト免許状ニ關スル規則ニ違犯ス  
ルノ故ヲ以テ警視官カ三年間之ヲ請求スルヲ得スト判決シ  
タル者是ナリ蓋シ警視官カ此免許状ヲ附與セサルヲ不當ト  
シ其事由ヲ上告スルヲ得ヘキハ唯々四季巡回裁判所ニ控訴  
スルノ一路アルノミ何トナレハ凡警視官ノ措置タル惡意ニ  
發シ或ハ賄賂ニ出テタルノ事件ニ非ルヨリハ大審院ニ於テ  
警視官ヲシテ強テ免許状ヲ附與セシメ或ハ警視官ノ判決ヲ  
破毀スルヲ得サレハナリ  
エドワルト六世ノ時ヨリ千八百三十年ニ至ル迄警視官カ免  
許状ヲ附與スルノ旨趣タルヤ國產稅ヲ課スル飲料ヲ販賣シ  
店頭ニ於テ之ヲ廢消セシメンカ為メナルニ外ナラス何トナ



レハ國產稅局ニ於テハ警視官ノ附與スル所ノ免許狀ヲ持ス  
ル者ニ非サルヨリハ又酒精外國製葡萄酒内國製葡萄酒麥酒  
及ヒ他ノ飲料ノ販賣ヲ允可ス可ラサレハナリ  
維廉四世第六十四章第一款ヲ以テ麥酒店ニ關スル法令ヲ設  
ケテヨリ從來ノ法令ハ為メニ其僅域ヲ減縮セリ其略ニ曰ク  
千八百三十年第十月十日以降地方官吏及ヒ法官ヲ除クノ外  
苟モ一家ノ居住人ニシテ免許狀ニ明記スル所ノ店頭ニ於テ  
スル時ハ國產稅局ヨリ麥酒黑麥酒梨酒林檎酒等ヲ販賣スヘ  
キ免許狀ヲ請フヲ得ヘシ云ト而シテ免許狀ノ持主ヲシテ  
豫シメ保証人一名ニハ二十磅ノ罰金ヲ納メ保証人二名ニハ  
十磅ノ罰金ヲ納ムヘキヲ約スルノ證書ヲ呈セシメ若シ法令  
ニ違犯スル時ハ本人若クハ保証人ヨリ前ノ罰金ヲ徵收スル  
ノ制ヲ定メタリ

又此法令ニ依テ警視官ニ附與スルニ賊徒蜂起ノ時ニ際シテ  
ハ麥酒店ヲ閉鎖セシメ或ハ又店主ヲシテ新定ノ量器ヲ使用  
セシメ若クハ店主カ人ノ亂醉暴行ノ所業アルヲ默許シ及ヒ  
躬ヲ偽造ノ麥酒ヲ販賣スル時ハ之ニ罰金ヲ科スルヲ得ヘキ  
ノ權ヲ以テセリ又其後ニ於テ凡麥酒店ハ毎日午前四時前ニ  
於テ開店シ或ハ午後十時後ニ於テ開店スヘカラス其日曜日  
若クハ祭日ニ於ル午前十時乃至午後一時午後三時乃至五時  
ノ間ニ在テハ必ラス閉店セサルヘカラストノ法ヲ制定シタ  
リ  
然ルニ從來ノ法令ヲ以テハ曾テ麥酒ノ販賣ニ制限ヲ施サ、  
ル為メニ多少ノ弊害ヲ醸生スル無キニ非ス故ニ千八百三十  
四年ニ於テハ免許狀ノ種類ヲ二種ニ分テ其一ヲ店頭ニ於テ  
販賣スル麥酒ヲ販賣スルノ免許狀甲トシテ其二ヲ店頭ニ於



テ禁消セサル麥酒ヲ販賣スルノ免許狀乙トセリ蓋シ乙ニ就  
テハ毫モ從前ノ規則ヲ改正スルヲ無持リ甲ノ持主ヲシテ同  
郷里ノ家主六名ニ連署セル履歷書ヲ呈セシメ而シテ倫敦  
府内及ヒ人口五千人ヲ含有スル都會或ハ其一里内ニ住スル  
者ノ如キハ別ニ履歷書ヲ呈セシメス唯其住家ハ一箇年十磅  
ノ價直ヲ有スル者タルヲ證セシムルノ制ヲ定ムルノミナラ  
ス兼テ警視官ニ賦與スルニ時々免許ヲ得タル麥酒店ヲ巡視  
シ且麥酒店ノ持主ヲシテ毎日開店時間ヲ午前五時乃至午後  
十一時ニ限り其日曜日及ヒ祭日ノ如キハ午後一時前ニ在テ  
開店セシメサルノ權ヲ以テセリ

維多利亞第六十一章第三四款ニ依テハ更ニ一層ノ制限ヲ設  
ケ帝ニ甲ノ持主ヲシテ履歷書ヲ呈セシムル恰モ從前ノ如ク  
ナルノミナラス尚甲乙ノ別ヲ問ハス總テ酒店ノ價直ニ從テ

許否スルノ一項ヲ加ヘ其價直ハ酒店ノ存在スル位置ニ依テ  
之ヲ區別シタリ今其畧概ヲ示サンニ倫敦府内及ヒ曩日ノ人  
口檢査ニ依テ人口一万人ニ超過スル都會ノ地ニ在テハ十五  
磅トシ其一万人乃至二千五百人ヲ含有スル都會ノ地ニ在テ  
ハ十一磅其他ニ在テハ八磅トシ又林檎酒ノ小賣人ヲシテ均  
シク此規則ヲ遵守セシメタリ

前條ノ法令ヲ閱シ來テハ讀者應ニ分明ニ酒店免許狀傳舍免  
許狀ニ  
同ト麥酒店免許狀トノ異ナル所以ヲ諒解スルニ足ルヘシ蓋  
シ麥酒店ニ於テハ帝ニ酒精外國製葡萄酒及ヒ内國製葡萄酒  
等ヲ販賣スルヲ得サルノミナラス其麥酒ヲ販賣スルニ於テ  
モ亦一次ニ四瓦倫半ニ超フルヲ得スト雖氏酒店ニ於テハ然  
ラス始メ警視官ノ免許狀ヲ得テ而シテ後チ國產稅局ノ免許  
狀ヲ請ヒ其允可ヲ經ル時ハ唯他ノ酒店主ニ酒精ヲ轉賣スル



ノ外ハ其卸賣ト小賣トヲ問ハス購入者ノ需求ニ應シテ國産  
稅ヲ課スル各種ノ飲料ヲ販賣スルヲ得ヘキナリ  
然ルニ此兩店ノ區域ハ千八百六十年酒類販賣免許法ノ公布  
ニ依テ大ニ其間ノ差違ヲ減縮セリ該法令第二十三款ニ曰  
ク凡ソ何人ヲ問ハス地方官吏及ヒ法官ヲ除クノ外食店ノ持  
主タル者ハ外國製葡萄酒及ヒ内國製葡萄酒ヲ小賣シ店內ニ  
於テ廢消セシムヘキ免許狀ヲ請フヲ得ヘシト而シテ此免  
許狀ヲ請フニハ必ス先ツ休憩店免許狀ヲ得サル可ラス且食  
店ノ價直ハ人口一万人ニ超過スルノ地ニ在テハ一ヶ年二十  
磅トシ其他ノ地ニ在テハ十磅ニ限レリ故ニ此免許狀ヲ得テ  
酒類ヲ小賣セントスル者ハ預メ其旨趣ヲ警視官ニ告ケサル  
可ラス若シ警視官ニ於テ食店ヲ點檢シテ其價直ノ法令ニ掲  
クル所ノ者ニ適セサルカ或ハ室内ノ不規則ナルヲ查出シ

若クハ當時ヲ距ル三年以内ニ於テ禁獄ノ刑ニ處セラレ或ハ  
傳舍主及ヒ麥酒店主タル時ノ免許狀ヲ没入セラレタルヲ  
證明スルハ警視官ハ其請ヲ否ムノ權ヲ有セリ又該法令ニ  
依テハ一次ニニ瓦倫以上ヲ販賣スルヲ禁止シ且食店開闔  
ノ時間ノ如キハ概テ麥酒店及ヒ傳舍ニ均シカラシメタリ蓋  
シ其後ニ至テハ維多利亞第九十一章<sup>第</sup>三十三款ヲ以テ前ノ  
法令ヲ改正セリト雖氏其要領ハ食店主ノ酒類販賣ノ狀ヲシ  
テ酒店主ニ均シカラシメント欲シ内外製葡萄酒ノ外猶麥酒  
ヲ小賣セシムルニ過キス  
抑々前條法令ノ主眼トスル所ハ店内ニ於テ廢消スヘキ飲料  
ヲ販賣スルノ一點ニ就テハ將ニ麥酒店主ヲシテ酒類名許狀  
及ヒ他ノ必須ナル國産免許狀ヲ請ハシメ以テ傳舍主ト均當  
ノ地位ニ在ラシメントスルニ在ルヲ以テ唯其異ナル所ハ傳







ノ警視官ニ於テ家屋ノ適當ナルヲ保證スル所ノ申報書及  
ヒ本人ノ行狀ニ就テ警視官ニ名ノ連署スル履歷書ヲ呈スル  
ニ非サレハ免許狀ヲ附與スルヲ得ス又警視官ハ時々酒店及  
ヒ休憩店等ヲ巡視スルノ權ヲ有ス

維多利亞第三十五章第二五六款ハテーブル酒販賣者ヲ  
シテ他ノ飲料小賣人ニ均シク店舗開閉ノ時ヲ限ラシムルノ  
條款ヲ掲ケ又免許狀ヲ持セシテ國産稅ヲ課スル飲料ヲ販  
賣スル者ヲ抑壓スルノ方法ヲ示ス

前ノ法令ヲ閱シ來テハ讀者ハ應ニ蘇格蘭ニ於テハ麥酒店及  
ヒ休憩店ニ關スル法令ヲ施行セサルヲ諒知スヘキナリ  
愛爾蘭ニ於テ免許法ノ緊要ナル者ハ維廉四世第六十四章第三  
四款ナリトス然リト雖モ此法令ハ他日多少ノ改正ヲ經タルヲ  
以テ方今施行スル所ノ者ニ就キ其要領ヲ披萃シテ之ヲ左ニ掲

ク

免許狀ハ當始ニ於テ四季巡回裁判ノ席ニ於テ警視官之ヲ付  
與ス而シテ此免許狀ハ唯麥酒ノ販賣ノミニ限ル若シ人アリ  
此免許狀ヲ請求スルニ當リ之ヲ付與スルヲ肯セサルハ警  
視官ハ其理由ノ説明書ヲ作り書記ニ付シテ之ヲ簿冊ニ登記  
セシメサル可ラス

免許狀ノ期日既ニ畢リ再々之ヲ請求セント欲スル時ニ於テ  
願主ノ行狀及ヒ前年家屋ヲ整理シタル事ニ就テ同区内ニ住  
スル戸主六名ト警視官ニ名以上ノ連署セル證書ヲ呈セサル  
可ラス若シ警視官ニ於テ此證書ニ連署スルヲ欲セサル時  
ハ其理由ノ説明書ヲ願主ニ交付シ願主ハ之ヲ將テ四季巡回  
裁判所ニ控訴スルヲ得ヘシ  
守関者戸主ニ非サル者捕吏獄卒警視官吏地方官吏法官蒸餾



者精餹者及ヒ酒精混和者等ハ國產稅ヲ課スル飲料販賣免許  
狀ヲ請求スルヲ得ヌ又酒店主ハ行旅ノ客人ヲ除クノ外ハ午  
後十一時乃至午前七時ノ間及ヒ日曜日ニ於テハ午後二時前  
ト午後九時乃至翌日午前九時ノ間ニ在テ飲料ヲ販賣スルヲ  
得ス

區會ニ於テハ酒精及ヒ麥酒ノ販賣者及ヒ其店舗ヲ監視セシ  
メシカ為メニ二十名ヨリ多カラス十名ヨリ少ナカラサル監  
督ヲ命スルヲ得ヘシ若シ區會ニテ此事ヲ執行セサル時ハ警  
視官二名以上連署シテ之ヲ命ス又酒店主ニ於テ六箇月以内  
ニ酒店ニ関スル所ノ法令ニ違反セルト三四ニ及ヘハ四季巡  
回裁判ノ席ニ於テ警視官二名以上連署シテ免許狀ヲ消棄ス  
ルヲ得ヘシ

英倫ノ休憩店法令ヲ公布スルニ際シ該國ニ於テモ又之ニ均

シキ者ヲ施行セリ

今ヤ此緊要ノ條件ニ関スル歲入工ノ沿革ヲ掲ケントスルニ方  
リ先ツ英蘇愛三國ノ特殊ナル警視規則ヲ概記セサル可ラス  
英倫ニ於テ警視官ノ權限ハ唯店頭ニ於テ廢消スル酒精ノ小  
賣人ノミニ及フ

蘇格蘭ニ於テ警視官ノ權限ハテールフル麥酒ノ販賣者及ヒ他  
ノ麥酒若クハ酒精ノ卸賣麥酒ハ一次ニ四瓦倫半酒精ハ二瓦  
倫ヨリ少カラヌヲ除クノ外總テ國產稅ヲ課スル飲料ノ販賣  
上ニ及フ而シテ該國ニ於テハ雜貨高買ニシテ酒店ノ業ヲ兼  
ヌルハ法律ノ禁止スル所ナルカ故ニ雜貨高買ハ警視官ヨリ  
本業ノ免許狀ヲ請ヒ兼テ店頭ニ於テ廢消セサル酒精等ヲ小  
賣スルニ至レリ英倫ノ地方ニ於テハ雜貨高買ニシテ酒店ノ  
業ヲ兼ヌル比々皆然ラサル無シ



愛爾蘭ニ於テ警視官ノ權限ハ店頭ニ於テ廢消スル麥酒及ヒ酒精等ノ小賣上ニ及フ下雖近時休憇店法令ノ公布以來ハ敢テ外國製葡萄酒ノ販賣ニ關係スルナシ蓋シ雜貨商賣ハ警視官ノ免許狀ヲ持セサルモ一次ニニクヲルト我五合二勺一ル當ニ過キス且店頭ニ於テ廢消セサル酒精ハ之ヲ小賣スヘキ免許狀ヲ國產稅局ニ請フヲ得ヘシ

國產稅ヲ課スル飲料ノ販賣免許稅ハ始メ印稅トシテ之ヲ賦課シ外國製葡萄酒ノ販賣ニハ四司令ヲ納メ麥酒ノ販賣ニハ一司令ヲ收メ而シテ此免許稅ハ警視官ニテ之ヲ付與セシカ千七百九十年ニ於テ外國製葡萄酒ノ販賣免許稅ハ之ヲ國產稅局ノ管轄ニ歸シ又從來麥酒ノ販賣免許稅ハ印稅局ノ管理スル所ナリシカ千八百八年ニ於テ始メテ之ヲ國產稅局ノ所轄ニ歸セリ國產稅ヲ課スル飲料ノ販賣免許狀ヲ二種ニ分ツ曰ク却賣免許

狀曰ク小賣免許狀即チ是ナリ而シテ此區別ハ麥酒ト酒精トノ間ニ於テ最モ甚シトス又飲料ヲ販賣シ店頭ニ於テ廢消セシムルト否ラサルトニ依テ免許狀ノ區別アリ而シテ其店頭ニ於テ廢消スヘカラサルノ免許狀ハ一般ノ却賣人ト或ル小賣人ニ付與スルモノナリ

酒精却賣人ハ一次ニ二瓦倫ヨリ多カラサル酒精ヲ販賣スルヲ得ス

酒精小賣人即チ酒店主ハ警視官ノ免許狀ヲ得レハ其店頭ニ於テ廢消スルト否トヲ問ハス如何ナル分量ニテモ販賣スルヲ得ヘシ他ノ小賣人ニ販賣スルハ法令ノ禁止スル所ナリ麥酒却賣人ハ四瓦倫半ヨリ多ラサル麥酒ヲ販賣スルヲ得ス他ノ免許狀ヲ有スル者ハ此限ニアラス麥酒小賣人ハ酒店ノ免許狀ヲ得ルニ於テハ店頭ニテ廢消スルト否トヲ問ハス如

七  
七  
七



何ナル分量ニテモ販賣スルヲ得ヘシ但シ麥酒、店免許状ノ  
ニテハ一次ニ四瓦倫以上ヲ販賣スルヲ得ス而シテ納税額  
多少ニ從ヒ店頭ニ於テ<sup>販</sup>消費スルヲ得ルト否トノ別アリ  
外國製葡萄酒卸賣人ハ販賣ノ分量ニ於テ制限アル無シ  
外國製葡萄酒小賣人ハ酒店免許状ヲ得ルニ於テハ如何ナル  
分量ニテモ販賣スルヲ得ヘシ但シ休憩店免許状ノニテハ一  
次ニ二瓦倫以上ヲ販賣スルヲ得ス  
内國製葡萄酒卸賣人ハ販賣ノ分量ニ於テ制限アル無シ  
内國製葡萄酒小賣人ハ二瓦倫以上ヲ販賣スルヲ得ス但酒店  
免許状ヲ併有スルニ於テハ店頭ニ於テ之ヲ<sup>販</sup>消費スルモ敢テ  
妨ナシトス  
今ヤ各種ノ高價ニ就テ分解セント欲スル所ノ者ハ即チ左ニ開  
列スルカ如シ

第一 酒店主 該主ハ麥酒、酒精及ヒ内外製葡萄酒ノ販賣免許  
状ヲ有スルヲ得ヘシ

第二 麥酒小賣人 該高價ノ麥酒店法令ニ準據シテ免許状ヲ  
得ル者ハ唯麥酒ノミヲ販賣スルヲ得ヘク其休憩店法令ニ  
準據シテ免許状ヲ得ルモノ、如キハ内外製葡萄酒ヲ併セ  
テ販賣スルヲ得ヘシ

第三 葡萄酒小賣人 該高價ノ休憩店法令ニ準據シテ免許状  
ヲ得ル者ハ内外製葡萄酒ヲ販賣スルヲ得ヘシ

第四 内國製葡萄酒小賣人

第五 テールブル麥酒販賣者

第六 國產稅ヲ課スル飲料ヲ小賣スル郵船

第七 麥酒釀造者ニシテ之ヲ小賣スル者

第八 麥酒、酒精及ヒ内外製葡萄酒ノ卸賣人



第一 酒店主

酒精小賣免許稅

始ノ英蘇二國ニ於テ酒精小賣免許稅ヲ課スルノ旨趣タルヤ專  
ラ民治上ヨリ起リ敢テ稅務ノ閑スル所ニ非ス故ニ其法令ニ曰  
ク今ヤ揮發ノ飲料ヲ嗜ムノ習俗大ニ民間ニ行ハレ殊ニ下等社  
會ノ間ニ在テ最モ甚シトス夫此種ノ飲料ヲ禁消スルノ弊タル  
ヤ帝ニ人民ノ健康ヲ害シ品行ヲ慢ルノミナラス兼テ勤勞作業  
ヲシテ放擲セシムルニ至ル況ンヤ其害ハ特リ當代ニ止ラス尚  
延テ後世ニ及フニ於テラヤ故ニ此般ノ弊風ヲ療センカ為メニ  
茲ニ免許狀ヲ發行シテ五十磅ノ稅ヲ納メシム依テ此免許狀ヲ  
有セサル者ハ二瓦倫ヨリ多カラサル啤蘭地糖水酒及ヒ其他揮  
發ノ飲料ヲ販賣スルヲ得スト之ニ加ルニ此種ノ飲料小賣人ニ  
ハ販賣ノ量一瓦倫ニ付二十司令ヲ增課シ且其免許狀ハ必ス警

視官二名ニテ連署セサル可ラサルヲ布告セリ

夫如斯苛政ヲ實施スルニハ之ニ續クニ嚴酷ノ所分ヲ以テセサ  
ルヲ得ス故ニ千七百三十七年ノ法令ヲ以テ酒精ヲ呼賣スル者  
ニ二十磅ノ贖罪金ヲ科スルノ條款ヲ設ケ若シ無力ニシテ之ヲ  
納メ得サル者ノ如キハ二箇月間懲治所ニ入レ期滿テ解放スル  
ルハ男女ノ別ヲ問ハス半衣ヲ脱シテ肌膚ヲ露シ之ニ鞭撻ヲ加  
ヘテ血ヲ濺クニ至ラシムヘシト云ヘリ

又千七百三十七年ニ於テ他ノ法令ヲ制定セリ其文ニ曰ク曩ニ  
揮發酒精ノ廢消ヲ限制センカ為メニ法令ヲ制定シテ之ヲ布告  
スルニ物ハラス人民ノ之ヲ廢消スルヤ今ニ至テ尚止マス而シ  
テ其弊害ハ下等社會ノ間ニ在テ殊ニ甚シトス加之國法ノ許サ  
サル處ニ於テ酒精ヲ密賣スル者ハ多クハ無産ノ徒ニシテ或ハ  
帳幕内ニ於テシ或ハ壁牆ノ間ニ於テスル比々皆然ラサル無レ



依テ此般ノ弊害ヲ矯正セシカ為メニ酒精ヲ販賣スル家主ハ悉ク酒精ノ小賣人ト看做シ免許状ヲ有セスシテ之ヲ販賣スル者ハ一百磅ノ贖罪金ヲ科スヘシト其第二條ニ曰ク此王國ノ法令ニ違犯シ若クハ該法ヲ實施スルヲ妨ケンカ為メニ邪惡放恣ノ人民相集合シテ犯罪人ヲ曲庇シ或ハ犯罪人ヲ搜索シテ警視官ニ告知セント欲スル所ノ吏員若クハ其他ノ人民ヲ歐擊或傷シテ殆ント死ニ至ラシムル者アリ故ニ嗣後五人以上相集合シテ如斯ノ罪状ヲ犯スルハ重罪人ト為シ七年ノ流刑ニ處スヘシト又千七百四十三年ニ於テ他ノ法令ヲ議定セリ其文ニ曰ク今ヤ千七百三十八年ノ法令ヲ實施スル極メテ難ク又不便ノ在ルアリテ其効力ハ嘗テ企望スル所ノ目的ヲ達スルニ足ラス依テ從來賦課スル所ノ酒精小賣稅二十司令及ヒ免許稅五十磅ヲ廢止シ更ニ酒精蒸餾者ニハ酒精ノ品種ニ從テ一瓦倫ニ付一司令乃

至六邊尼ノ稅ヲ課シ酒精小賣人ニハ一箇年二十司令ノ免許稅ヲ課スヘシト蘇格蘭ニ於テ麥芽ヲ以テ製造セル酒精ノ製造者及ヒ小賣人等ハ此法令ニ依テ納稅スルヲ免レシカ其後チヨルデニ廿第十二章第九款ヲ以テ再ヒ販賣免許稅ヲ課セリ又千七百四十七年ニ於テ「ビル・オフ・モルタリヤ」内ノ酒精蒸餾者ハ免許稅五磅ヲ納メテ酒精ヲ小賣スルヲ得ヘキノ法令ヲ施行シタレ尼為メニ弊害ヲ醸成スル勘カラサルカ故ニ終ニ千七百五十一年ヲ以テ該法ヲ廢止シ更ニ一般ノ酒精小賣免許稅ニ二十司令ヲ增課シテ之カ小賣ヲ允可シタリ  
千七百八十四年始メテ酒店ノ價直即チ其借賃ニ比例シテ酒精小賣免許稅ヲ課スルノ制ヲ定メ其後千七百九十年ニ至テ更ニ其率ヲ增加セリ其割合ハ即チ左ノ如シ  
借家賃十五磅以下ヲ出ス者  
四一四〇



借家賃十五磅乃至二十磅ヲ出ス者	五〇・二〇
借家賃二十磅乃至二十五磅ヲ出ス者	五一〇・〇
借家賃二十五磅乃至三十磅ヲ出ス者	五一八〇
借家賃三十磅乃至四十磅ヲ出ス者	六〇六〇
借家賃四十磅乃至五十磅ヲ出ス者	六一四〇
借家賃五十磅以上ヲ出ス者	七〇二〇

從來蘇格蘭ノ酒精小賣免許稅ハ英倫ト其率ヲ均シクセシカ千八百三年ニ於テハ山地ニ限リ之ヲ一磅ニ減シ其市府及ヒ他ノ部分ノ如キハ二磅ニ迄減シタリシカ其後千八百十五年ニ至テハ更ニ増加シテ從前ノ倍額ト為セリ

千八百十六年ニ於テハ英倫ノ酒精小賣免許稅ヲ變更シテ大約從前ヨリ五割ヲ増加シタレ氏其最下ニ位スル二項ノ免許稅即チ四磅十司令及ヒ五磅ニ至テハ之ヲ増加スルヲ前ノ比例ニ至ラ

ス又千八百二十四年ニ於テハ多少其率ヲ減却シ千八百二十五年ニ至テ亦少シク之ヲ改正シタリ是則チ今日英倫ニ於テ施行スル所ノ者ナリ其割合ハ左ノ如シ

借家賃十磅以下ヲ出ス者	二〇四・一
借家賃十磅乃至二十磅ヲ出ス者	四〇八・二
借家賃二十磅乃至二十五磅ヲ出ス者	六一二・三
借家賃二十五磅乃至三十磅ヲ出ス者	七一四・四
借家賃三十磅乃至四十磅ヲ出ス者	八一六・四
借家賃四十磅乃至五十磅ヲ出ス者	九一八・五
借家賃五十磅以上ヲ出ス者	一一〇〇・六

蘇格蘭ノ酒精小賣免許稅ハ千八百五十三年ヲ以テ改革シ其後連綿施行シテ今日ニ至ル蓋シ該國ニ於テハ麥酒ヲ併セテ販賣



スルモ別ニ免許税ヲ納ムルヲ要セス其割合ハ即チ左ノ如シ

借家賃十磅以下ヲ出ス者

磅司令  
四〇四、〇

借家賃十磅乃至二十磅ヲ出ス者

五〇五、〇

借家賃二十磅乃至二十五磅ヲ出ス者

九〇九、〇

借家賃二十五磅乃至三十磅ヲ出ス者

一〇一〇、〇

借家賃三十磅乃至四十磅ヲ出ス者

一一一一、〇

借家賃四十磅乃至五十磅ヲ出ス者

一二一二、〇

借家賃五十磅以上ヲ出ス者

一三一三、〇

始ノ愛爾蘭ニ於テ施行セル酒店免許税ハ印紙ニ因テ之ヲ課セシカ千八百十二年ノ印税法纂輯書ヲ閱ルニ當時此税ヲ課スルノ法タル敢テ飲料ノ種類ヲ分タス揮發ノ飲料葡萄酒麥酒<sup>ル</sup>エリ<sup>ル</sup>一<sup>ル</sup>麥酒<sup>種</sup>林檎酒梨酒蜂蜜水等ノ販賣税ヲ併セテ一種ト為レ即

千左ノ如ク販賣ノ場所ニ依テ其率ヲ異セルカ故ニ一者ニテ直ニ其法ノ奇異ニシテ且苛酷ナルヲ諒スルニ足ル

都伯林<sup>ゴーク</sup>ウ<sup>ラートル</sup>フ<sup>ラルト</sup>リ<sup>メリツク</sup>及<sup>ヒ</sup>ベ<sup>リフワ</sup>ストニ於テハ

四十磅

都伯林ヲ距ルニ里以内及ヒ<sup>ゴーク</sup>ウ<sup>ラートル</sup>フ<sup>ラルド</sup>リ<sup>ノ</sup>リツク<sup>或ハ</sup>ベル<sup>フワスト</sup>ト等ヲ距ル一里以内ニ於テハ

三十三磅

都伯林ヲ距ル五里以内及ヒ此法令ニ明記スル二十七所ノ市府ヲ距ル一里内ニ於テ

二十二磅

愛爾蘭國內他ノ場所ニ於テハ

十一磅



加之此稅額ノ外尚五分ヲ倍稅ヲ課シ又十一磅ノ稅ヲ納メテ飲  
 料ヲ小賣スル者ヲシテ一次ニ二瓦倫以上ヲ賣却セシメンカ  
 メニ更ニ十一磅ノ倍稅ヲ課セリ然ルニ千八百十五年ニ於テハ  
 本稅ヲ以テ國產稅局ノ所轄ニ歸シタリト雖氏小賣人ヲシテ一  
 次ニ二瓦倫以上ヲ賣却セシメンカ為メニ更ニ賦課スル所ノ倍  
 稅ヲ廢止スルノ外ハ課稅ノ方法等ニ於テ更ニ變更スル所ナシ  
 千八百二十五年ニ於テハ愛爾蘭ノ飲料販賣稅ヲ改正シテ英倫  
 ト均當ノ稅率ニ至ラシメタリト雖氏特リ茶咖啡等ヲ販賣スル  
 商賈ニシテ店頭ニ於テ酒精ヲ廢消セシメス一次ニ二クヲール  
 ト以上ヲ賣却セサル者ニ賦課スル所ノ免稅稅ノ如キハ自ラ英  
 倫ト其趣ヲ異セリ其茶咖啡等ノ商賈ニシテ酒精ヲ小賣スル免  
 許稅ハ即チ左ノ如シ

借家賃二十五磅ヲ出ス者

磅司令  
九〇八五

借家賃二十五磅乃至三十磅ヲ出ス者	一一〇〇六
借家賃三十磅乃至四十磅ヲ出ス者	一二〇二六
借家賃四十磅乃至五十磅ヲ出ス者	一三〇四七
借家賃五十磅以上ヲ出ス者	一四〇六七

麥酒小賣免許稅

酒店主ノ麥酒小賣免許稅ハ安納女皇ノ世ニ於テ始メテ之ヲ施  
 行シ即チ印稅一司令ナリシカ其後之ヲ增加シテ一磅一司令ト  
 為シ尋テ一磅十司令六邊尼ニ磅二司令四磅四司令ニ増加シ終  
 ニ本稅ノ所轄ヲ國產稅局ニ歸スル數年ノ後千八百十六年ニ至  
 リ借家賃ノ比例ニ隨ヒ之ヲ賦課スルニ至レリ蓋シ當時ノ稅率  
 ハ借家賃十五磅以下ニハ二磅二司令ヲ課シ十五磅乃至二十磅  
 ニハ三磅三司令二十磅以上ニハ四磅四司令ヲ課セリ



千八百二十五年ニ於テハ英蘇愛三國ニ於ル麥酒小賣免許税ノ率ヲ畫一セシカ其率ハ今日ニ至ル迄英愛ノ二國ニ於テ之ヲ施行ス其割合ハ即チ左ノ如シ

借家賃二十磅以下ヲ出ス者	一〇、二、〇、ニ
借家賃二十磅以上ヲ出ス者	三〇、六、一、三

千八百六十三年ノ法令ヲ以テ英倫及ヒ愛爾蘭ノ酒店主ニシテ酒精販賣免許状ヲ有セサル者〔兵營内ノ雜貨商ハ之ヲ除ク〕ハ借家賃二十磅以下ヲ拂フト雖氏必ス麥酒小賣免許税ヲ納メサル可ラサルコトヲ令セリ

輒迄ニ至リ麥酒小賣免許税一磅二司令二邊尼半ヲ納メテ麥酒ヲ販賣セント欲シ傳舎免許状ヲ請フ者日々ニ增多セリ然ルニ警視官ニ於テ之ヲ付與セサルハ麥酒販賣者ニ對シテ不正ノ措

置タルモ其之ヲ付與スル場合ニ於テハ到底政府ノ損失タラサルヲ得ス

蘇格蘭ノ麥酒小賣免許税ハ千八百五十三年ヲ以テ變改シ今日ニ至ルマテ猶之ヲ施行ス其割合ハ即チ左ノ如シ

借家賃十磅以下ヲ出ス者	二一〇、〇
借家賃十磅以上ヲ出ス者	四〇〇、〇

外國製葡萄酒小賣免許税

酒店主ニシテ外國製葡萄酒ヲ小賣スルノ免許税ハ千七百十年始メテ印紙ニ因テ之ヲ課シ其後千七百五十七年ニ至リ酒精ヲ除テ唯麥酒ノミヲ販賣スル者〔甲〕ニハ四磅ニ増加シ又麥酒ト酒精トヲ併セテ販賣スル者〔乙〕ニハ二磅ニ増加シ而シテ蘇格蘭ニ於テハ〔甲〕ヲ二磅十三司令四邊尼トシ〔乙〕ヲ一磅六司令八邊



尼トセリ

千八百二十五年ニ於テ英蘇愛三國ノ免許税率ヲ畫一スル時ニ於テモ亦タ從前ノ主義ニ依テ之レヲ課セリ其割合ハ即チ左ノ如シ

麥酒ノミヲ販賣スル免許税

磅司令

四〇八、二

麥酒ト酒精トヲ併セテ販賣スル免許税

二〇四、一

内國製葡萄酒小賣免許税

内國製葡萄酒小賣免許税ハ千八百九十年ニ於テ始メテ之ヲ課シ今ヤ英蘇愛ノ三國皆其率ヲ同シフス且之ヲ賦課スルニハ敢テ借家賃ノ多寡ニ関セス總テ一磅二司令半ト為ス

第二 麥酒小賣人

酒店主ニ次テ緊要ナル高買ハ千八百三十年ヲ以テ議定セル麥

酒店法令ヲ遵奉シテ麥酒ヲ小賣スル者トス既ニ麥酒税ヲ廢止シ之ニ代ルニ該法ヲ以テスルヤ何人ヲ問ハス警視官ノ免許状ヲ有セスシテ麥酒ヲ小賣スルヲ得セシムル猶前ニ開陳スル所ノ如シ然レ氏該法ハ唯英倫ニ於テノミ之ヲ施行シ敢テ他ノ二國ニ及サス

抑麥酒税ヲ廢止スルノ議業ハ下議院ノ議長カルクラフト氏ノ命ニ依テ當時麥酒ノ高況ヲ審査センカ為メニ選舉シタル委員ノ紹介スル所ニシテ始メ議長ハ委員ニ向テ本案ノ旨趣ハ全ク麥酒ノ販賣ヲシテ自由ノ點ニ基カシムルニ在ル所以ヲ開陳シタルニ委員等ハ即チ今ヤ議員ノ中必ス麥酒税ヲ廢止スルニ同意スル者アルニキヲ答ヘ以テ本案ヲ下議院ノ議事ニ附シタル者ナリ

麥酒店法令ニ據ルニ店頭ニ於テ廉消スヘキ麥酒ノ小賣免許税

七 歳 自



八一磅二司令ナリシカ其後五分ヲ増加シ以テ今日ニ至ル其割  
合ハ即チ左ノ如シ

店頭ニ於テ釀消セサル麥酒及ヒ

磅司令

林橋酒ノ小賣免許稅

一〇二〇 $\frac{1}{2}$

店頭ニ於テ釀消スル麥酒及ヒ林

橋酒ノ小賣免許稅

三〇六〇 $\frac{3}{4}$

店頭ニ於テ釀消シ或ハ釀消セサ

ル林橋酒ノ小賣免許稅

一〇六〇 $\frac{1}{2}$

第三(休憩店法令ヲ遵奉スル外國製葡萄酒小賣人及ヒ休憩  
店)

千八百六十年哥刺士斯頓氏ハ新タニ一種ノ免許稅ヲ課セシカ  
其本旨ハ敢テ政府ノ歲入ヲ計ルニ非スレテ專ラ民事ニ関シ即  
チ倫敦府内ニ於テ夜間免許狀ヲ有スル酒店ヲ鎖スノ後開店シ

テ營業スル休憩店ヲ釐正シ兼テ佛蘭西條約ノ旨趣ニ基キ且歲  
入出豫算表ヲ以テ陳述セル政畧ニ從ヒ外國製葡萄酒ノ販賣ヲ  
擴張センカ為メタルニ外ナラス而シテ該店ハ午後十時乃至午  
前五時ノ間ニ在テ衆庶ノ會同饗宴等アル時ハ何ノ時ヲ問ハス  
官吏ヲシテ家屋室内等ヲ監察セシメ且決シテ麥酒酒精葡萄酒  
等ヲ販賣セシメサルニ在リ是則チ休憩店免許稅ヲ課スルノ要  
領ナリ尋テ維多利亞第九十一章第二十四五款ヲ以テ改正セル  
稅率ハ即チ左ノ如シ

磅司令

借家賃三十磅以下ヲ出ス者

一〇、六

借家賃三十磅以上ヲ出ス者

一〇、一〇

休憩店ノ免許ヲ得ル者ハ或ル規約ヲ遵守シ免許稅ヲ納メテ内  
外製葡萄酒ノ販賣免狀ヲ領スルヲ許ス其稅率ハ即チ左ノ如



借家賃五十磅以下ヲ出ス者

三〇三〇

借家賃五十磅以上ヲ出ス者

五〇五〇

又該法ヲ以テ休憩店主ハ免許稅ヲ納メテ店頭ニ於テ廢消セス

又ニ瓦倫ヨリ多カラザル葡萄酒ノ販賣免許狀ヲ領スルヲ許ス

其稅率ハ即チ左ノ如シ

磅司令

借家賃五十磅以下ヲ出ス者

二〇二〇

借家賃五十磅以上ヲ出ス者

三〇三〇

千八百六十一年ノ法令ハ英倫ニ於テノ之ヲ施行セシカ同年

間ニ在テ亦之ヲ愛爾蘭ニ及セリ

千八百六十一年第三月三十一日ヲ以テ終ル課稅ノ初年間ニ於

テ付與スル休憩店ノ免許狀ノ數ハ左ノ如シ

免許稅十司令六邊尼

免許稅一磅一司令

倫敦府内休憩店免許狀

三一

一、六三二

地方休憩店免許狀

一、八六〇

二、二七五

計

五、七九八

收稅額

三、三六六磅

店頭ニ於テ廢消スル葡萄酒ノ販賣免許狀

六八六

店頭ニ於テ廢消セサル葡萄酒ノ販賣免許稅

七四〇

計

一、四二六

收稅額

二、六三九磅

休憩店免許稅ニ依テ收入スル稅額ノ預メ期望スル所ニ及シテ  
斯ノ如キ僅少ナル者ハ何ソヤ益シ法令ニ依テ該稅ヲ賦課スル  
ノ區域ヲ限制スルカ為メナリ



夫借家賃二十磅ノ以テ區別スル僅々ノ輕稅ト其一ヲ一磅一司令  
トニ邊ニテ夜間開店ニテ飲料ヲ販賣スルニ因テ課スルノ制ヲ定  
メ而シテ其區別ハ唯販賣ノ時刻ニアレハ安ソ該法ヲ施行ス  
ルノ際ニ於テ其店ハ則チ夜間衆庶ノ會同饗宴スル所タルヲ  
證明スルニ難ク為メニ稅稅スル者ナキヲ保スヘケンヤ

千八百六十九年第三月三十一日ニ終ル一週年間ニ付與シタル  
休憩店免許狀ノ數ハ六千四百零七枚ナルカ故ニ之ヲ前八年間  
ニ比較スレハ其增加ハ一割弱ニシテ人口増殖ノ度ニ少シク超  
過シ今ヤ殆ト其極度ニ達シタルノ狀アリ

又店頭ニ於テ廢消セサル葡萄酒ノ販賣免許狀甲ハ千八百六十  
年度間ニ於テ七百四十枚ヲ付與セシカ千八百六十八年度ニ至  
テハ二千七百零六枚ニ及ヒ其店頭ニ於テ廢消スル葡萄酒ノ販  
賣免許狀乙ハ六百八十六枚ヨリ二千九百七十四枚ニ至リシカ

故ニ甲ハ二十六割五分ヲ増加シ乙ハ三十三割二分ヲ増加シタ  
ルナリ

第四内國製葡萄酒小賣人

千七百九十年始メテ内國製葡萄酒ヲ小賣スル者ニ二磅四司令  
ノ稅ヲ課セシカ其後改正シテ一磅二司令半邊尼ト為シ以テ今  
日ニ至ル而シテ此免許稅ハ英蘇愛ノ三國ヲ通シテ之ヲ課シ一  
次ニ二瓦倫以上ヲ販賣スルヲ許サス其二瓦倫以上ヲ販賣スル  
ヲ得ルハ較増重ノ稅ヲ收メテ卸賣人ニ付與スル所ノ免許狀ヲ  
リ而シテ此兩種ノ免許狀即チ卸賣小賣ノ兩種ト酒店主ニ附與スル内國  
製葡萄酒販賣免許狀トノ間ニ異ナル所ハ唯之ヲ付與スル期日  
ノ前後ニシテ其一ハ第七月ヲ以テシ其二ハ他ノ酒店免許狀ニ  
均シク第十月ヲ以テスルノ別アルノミ

第五「テーブル」麥酒販賣者



千八百六十一年ニ於テ「ノーブル」麥酒「グラルト」ニ付一邊尼半  
以下ヲ販賣スル者ハ五司令ノ免許稅ヲ課シタリ抑此種ノ麥酒  
ヲ販賣スルニ千八百三十年前ニ在テハ免許狀ヲ有スルヲ要セ  
サリレカ今ヤ免許稅ヲ課スルハ第一麥酒酒店法令ニ抵触スル所  
ナキヤ否ノ疑難ヲ生セリ依テ千八百三十年十一月九日內國  
稅察ノ指令ニ依テ當分課稅スルニ決シ終ニ維多利亞第六十一  
章第三四款ヲ以テ之ヲ確定シタリ

第六〔郵船內國產稅ヲ課スル飲料ノ小賣人〕

此種ノ小賣人ハ其數甚タ少ク且特殊ノ者ナリ而シテ其免許狀  
ハ一磅ニ司令半邊尼ニシテ或ル船隻ニ限り麥酒酒精外國製葡  
萄酒及ヒ煙草等ヲ販賣スルヲ得ヘシ然レ氏此免許ヲ請フニハ  
必ス船主若クハ船長ノ推撰スル者ナラサル可ラス

第七〔醸造者ニシテ小賣ヲ兼ヌル者〕

從來醸造者ニシテ警視官ノ免許ヲ得ル者ノミ麥酒ノ販賣ヲ許  
可スルノ制ヲ改メ更ニ其販賣ヲ盛センカ為メニ五磅五司令今  
ヤ五磅十司令三邊尼ヲ課スノ免許稅ヲ課シ店頭ニ於テ廢消ス  
ルノ外ハ激烈ノ麥酒ヲ小賣スルヲ許セリ然レ氏此特許ハ一  
次ニ麥芽十六「ブッセル」以下ヲ醸造スル者ノミニ限ルカ故ニ其  
免許狀ヲ付與スルノ數ハ曾テ百枚ニ至ラス實ニ昨年〔千八百六  
十九年〕ノ如キハ僅ニ十七枚ニ過キサリキ

兵營及ヒ戲場內ノ酒店

兵營及ヒ戲場ニ於テ國產稅ヲ課スル飲料ヲ販賣スルノ免許狀  
ハ所謂酒店主ニ付與スル所ノ者ニ異ナラス即チ店頭ニ於テ廢  
消セル飲料ノ小賣人中ニ含有スト雖氏殊ニ此兩種ノ免許狀ノ  
為メニ設クル所ノ規則ナキニ非ス依テ今茲ニ之ヲ詳説ス

兵營內ノ酒店

此酒店ハ殊ニ兵隊ノ為メニ設立スル所ニシテ



何ノ時ヲ問ハス公務アハ場合ニ於テ開店ニサルヘカラサル也  
故ニ免許状付與ニ志メニ設クル年會ヲ待タス小會ノ時ニ於テ  
免許状ヲ下付スルノ權ヲ警視官ニ付與ス

軍律ニ據ルニ兵營ノ酒店主ハ揮發ノ飲料ヲ販賣スルヲ得ス故  
ニ該店ノ借賃二十磅以下ニハ酒精ヲ販賣セサル他ノ酒店主ニ  
課スル所ノ昂率ノ免許稅(即チ三磅六司令一邊尼四分三ヲ免シ  
テ唯一磅二司令半邊尼ヲ納メシ又外國製葡萄酒ノ販賣免許稅  
ノ場合ニ於テモ均シク酒精ヲ販賣セサル他ノ酒店主ニ課スル  
所ノ免許稅四磅八司令二邊ニニ代ルニ二磅四司令一邊ニヲ以  
テス

戲場内ノ酒店 國王ノ特許ヲ經テ創立スル戲場或ハ宮内卿及  
ニ警視官ノ免許ヲ得タル戲場若クハ他ノ遊戯場ニ於テ麥酒酒  
精等ヲ販賣スルハ別ニ警視官ヨリ傳令免許状ヲ得サルモ普通

ノ酒店免許状ニテモレリトス

第八 卸賣人

國產稅ヲ課スル飲料ヲ卸賣スル各種ノ卸賣免許状ハ通常一人  
ニテ之ヲ有スルカ故ニ實際ニ於テハ各種ノ免許状ヲ一紙ニシ  
テ付與スルヲ例トス

麥酒卸賣人

千八百二十四年始メテ麥酒卸賣免許状ヲ發行シ其翌年以後本  
稅ノ率ハ英蘇愛ノ三國皆同一ニシテ今ヤ三磅六司令一邊尼四  
分三ヲ課ス前既ニ開陳スルカ如ク此免許状ヲ以テハ麥酒四瓦  
倫半以下ヲ販賣スルヲ得スト雖モ千八百六十二年ニ於テ英愛  
ニ國ノ麥酒卸賣免許状ヲ有スル者ニハ補助免許稅一磅一司令  
半邊ニヲ納メテ店頭ニ於テ釀消スルノ外ハ少量ノ麥酒ヲ販賣  
スルヲ得セシメタリ蓋シ該法 一八七〇以前ニ在テ英倫ノ麥



酒却賣人ハ麥酒店法令ニ遵テ  
販賣スルヲ得タルモ其酒精却賣ヲ兼ヌルニ至テハ該法ノ禁止  
スル所亦之ヲ奈何トモスル能ハサリキ

### 外國製葡萄酒却賣人

葡萄酒販賣ノ量ヲ限制スルノ一點ニ関シテハ酒店免許狀ヲ有  
スル却賣人ト小賣人トノ間ニ於テ區別アル無シ唯其異ナル所  
ハ小賣人ニシテ警視官ノ免許狀ヲ有スレハ店頭ニ於テ之ヲ  
消セシムルヲ得ルノコト

葡萄酒却賣免許稅ハ千七百十年始メテ印紙ニ依テ四司令ヲ課  
シ千七百五十七年ニ至テハ五磅ニ増加シ千八百二十五年ニハ  
十磅ト為セシカ今ヤ十磅十司令ヲ課ス而シテ其率ハ英蘇愛ノ  
三國ニ於テ差異アルヲ示シ

### 内國製葡萄酒却賣人

内國製葡萄酒却賣免許稅ハ千七百八十四年ニ於テ始メテ之ヲ  
課シ其率五磅ナリシカ其後ニ至テ之ヲ廢止シ千八百六十年ニ  
及シテハ再ヒ二瓦倫以上ヲ販賣スル者ニ五磅五司令ヲ課シタ  
レ氏此種ノ高價ハ其數甚ク尠ク現ニ昨年〔千八百六十九年〕ニ於  
テハ漸ク百二十三枚ヲ付與シタリ

### 酒精却賣人

千七百八十四年始メテ英蘇二國ノ酒精却賣人ニ課スルニ五磅  
ノ免許稅ヲ以テシ其後千八百二十五年ニ於テ之ヲ増加シ十  
磅ト為シ以テ英蘇愛三國ノ稅率ヲシテ均一ナラシメタリ  
千八百四十八年免許狀ヲ有スル酒精却賣人ハ補助免許稅二磅  
ニ司令ヲ納メテ店頭ニ於テ藥消セル外國製里克兒一ツラルト  
以上ヲ販賣スルコトヲ允可セシカ此變革ハ酒店主ノ抗議スル所  
タルニ拘ハラズ他日酒精却賣

一ツラルトニ過キサ



各種ノ酒精ヲ販賣セシムル法  
シテ當時販賣ノ權ヲ特リ外國ノ里克兒ノミニ限ル所以ノ者  
ハ何ヤ蓋シ下議院ニ於テ酒店主ノ權勢ヲ專セル自ラ政府ノ  
施政ノ左右スルニ足レハナリ

千八百六十一年酒精卸賣人ニ許スニ補助免許稅三磅三司令ヲ  
納メテ各種ノ酒精一クヲルト以上ヲ販賣スルヲ得ヘキヲ以テ  
ス抑此事ハ從來本憲ノ德憑スルノミナラス上下兩議院ノ委員  
ニ於テモ亦均シク認可スル所ナリ而シテ一タヒ此法令ヲ發ス  
ルニ及テヤ一方ニ於テハ政府ノ改入ヲ增多シ又一方ニ於テハ  
衆庶ノ便益ヲ加フルニ至レリ

酒店主及ヒ他ノ小賣人ニ付與スル假免許狀

前ニ記スル所ノ外酒店主ニ關スル假免許狀ノ變革ハ良シヤ會計  
上ニ於テ緊要トセザルモ始メ本憲ヲ下議院ニ紹介シ其後本憲

ニ於テ之ヲ處分スルニ當テ頗ル煩擾ヲ醸シタリ蓋シ意ハ日第  
四世ノ免許法令ニ據ルニ假免許狀ヲ有スル酒店主ハ唯期市ヲ開  
キ或ハ競馬ヲ興行スルノ時ノミ假屋若クハ帳幕内ニ於テ國產  
稅ヲ課スル飲料ヲ販賣スルヲ得ルノ制タルニ拘ハラズ本憲ニ  
於テハ此他人民ノ群集スルニ當リ一般ノ便益ナリト思惟シ且  
警視官ノ免許ヲ得レハ前ニ均シキ特許ヲ與フルヲ慣例トセリ  
依テ國法ヲ以テ更ニ認可セラレシヲ欲シ千八百六十二年ニ  
於テハ本憲ニ付與スルニ凡ソ衆庶ノ饗宴踏舞打球及ヒ射擊等  
ノ時ニ當テハ假免許狀ヲ付與シ酒店主ヲシテ國產稅ヲ課スル  
飲料ヲ販賣セシムルノ權ヲ以テセラレシヲ建議シ之ヲ內國  
稅改正案中ニ加ヘテ議院ニ紹介シタルニ豈ニ料ランヤ酒店主  
ヲ猜忌スルノ甚ニク却テ一層ノ限制法ヲ施シ從來特許スル所  
ノ定期市及ヒ競馬場ニ於テ飲

販賣スルノ權ヲ併セテ奪



去レリ然リト雖氏其翌年ニ至  
レニ之レヲ改正スルヲ得

千八百六十二年ノ決議ニ於テハ假免許状ヲ一日五司令ニ定メ  
警視官二名ノ免許ヲ得ルヲ必要トセシカ原來地方ノ酒店主ニ  
在テハ警視官ノ免許ヲ得シカ為メニ遠隔ノ地ニ至ラサル可ラ  
サルノ不便アリヲ免レス依テ千八百六十三年ニ於テハ一日ノ  
免許稅ヲ二司令六邊ニ減シ且警視官一名ノ免許ヲ以テ是レ  
リト為スノミナラス尚免許状ノ期日ヲ延ヘテ從前特許セル定  
期市及ヒ競馬場ニ於テ飲料ヲ販賣スルヲ得セシメタリ又千八  
百六十四年ニ於テハ更ニ此特許ヲ麥酒及ヒ外國製葡萄酒小賣  
人<sup>甲</sup>烟草卸賣人<sup>乙</sup>及ヒ休憩店主<sup>丙</sup>ニ及ホシ甲乙ニハ一日一司  
令ヲ課シ丙ニハ四邊ニ課シテ警視官一名ノ免許ヲ得セシメ  
タリ

一般ノ規則

抑々政府ノ歲入ヲ保護センカ為メニ前ニ記スル所ノ商賣ヲシ  
テ遵守セシムル一般ノ規則ニ就テハ殊千八百四十八年ニ重ニ  
酒精卸賣人及ヒ小賣人ニ関スル貯品法及ヒ准許法ヲ廢止スル  
ヲ變革ノ大ナル者トス是ヨリ先キ國產稅局ノ吏員ハ酒精卸賣  
人及ヒ小賣人ノ貯品ヲ檢査センカ為メニ期日ヲ定メテ商家ヲ  
巡回シ或ハ酒精ヲ購入者ニ搬送スルニハ必ス該吏員ノ准許狀  
酒精<sup>酒類</sup>ノ種類<sup>分</sup>重<sup>量</sup>ヲ添ヘサル可ラサルノ制ヲ設ケ若シ此制ヲ遵  
奉セサル片ハ該品ヲ沒收シ或ハ贖罪金ヲ追徵セシカ或ハ過該  
失<sup>錯</sup>出ル者往々之レ可ルヲ以テ本寮ニ於テハ務メテ寬待宥  
恕シテ曩ニ沒收追徵スル所ノ者ヲ回收セシムルノ措置ニ及フ  
ト雖氏為メニ煩勞ヲ與ヘ日子ノ徒費セシムルヲ如何センヤ既  
ニ此二法ハ斯ノ如キノ弊害アリニ爲ラス酒精ノ密商ヲ預防



ルノ良法トシテスシク之ヲ施行セシモ今ヤ却賣人及ヒ小賣  
等ヲ貯品検査ヲ廢止シ又准許狀ニ代ルニ高買ノ自記スル所ノ  
證書ヲ以テスルニ及テハ會ニ政府ノ歲入ヲ損害セサルノミナ  
ラス殆ント九万人ノ高買ヲシテ復々煩勞ノ患ナカラシメ且本  
寮ニ於テハ歲費六万五千磅ヲ節減シ數名ノ吏員ヲ廢黜スルヲ  
得タリ  
彼ノ二法ハ業既ニ廢止シタリト雖氏今ニ至テ尚酒精高買ヲシ  
テ其購入酒精ノ全量ト販賣酒精一瓦倫以上トヲ簿冊ニ登記セ  
シムルヲ例規トス蓋シ近時ニ至ル迄收稅吏員ハ少クモ一季間  
ニ於テ一回酒精高買ノ家ニ至テ貯品簿ヲ點檢セシカ千八百六  
十八年第七月ニ於テハ此巡回度數ヲ減却スルニ決シ漸次舉行  
シテ今ヤ一週年間僅ニ一回ト為ス  
酒精高買ヲシテ自記ノ證書ヲ作ラシムルノ制ハ満足ノ結果ヲ

呈スル瞭々觀ルニ是ルヘキ者アルヲ以テ千八百六十八年ニ於  
テハ猶之ヲ酒精精餾者ニ及ホシタリ而シテ此變革ニ依テハ准  
許狀書寫ノ為メニ採用セル吏員ヲ廢黜スルヲ得タルカ故ニ其  
政府ノ歲費ヲ節減スル亦甚々尠シトセス  
酒店免許稅ハ原来借家賃ノ多寡ニ從テ輕重増減スル者ナリ然  
ルニ從前ニ在テハ其家賃ヲ査定スルニ多少ノ困難ヲ生セシカ  
千八百五十一年再ニ家稅ヲ賦課スルニ及シテハ既ニ家稅ニ照  
準スルノ便ヲ得テ課稅自ラ均一ナルニ至リ英蘇二國ノ收稅額  
ハ為メニ七万磅ヲ増加シ千八百六十二年ニ於テハ又之ヲ愛爾  
蘭ニ及ホシテ一万千磅ノ收稅ヲ増加シタリ  
從來々酒店免許ニ區別ヲ設ケサルノ弊害ハ都府ト地方トニ論  
ナク恒ニ高買ノ然訴スル所ナリシカ昨年千八百六十九年ニ於  
テ其改正案ヲ議院ニ紹介シタリ今茲ニ其要領ヲ掲ケハ店頭







從僕ヲ從ハ或ハ馬ヲ牽ク  
時ハ一名若クハ一頭毎ニ

二〇二

此種ノ稅ハ從來印紙ニ依テ課セシカ往々脱稅ヲ計ル者アルヲ以テ千八百六十一年ニ於テ國產稅局吏員ヲシテ之ヲ監視セシメタリ然ルニ其翌年ニ至テハ遂ニ收稅額ニ割五分ヲ増加シ其結果ノ切タル一年ハ一年ヨリ著ルキニ至リシカ故ニ遂ニ千八百六十四年ヲ以テ全ク國產稅局ノ管理ニ歸スルヲ得タリ左ニ掲クル所ノ表ハ收稅額増加ノ結果ヲ示ス者ナリ又以テ本案ノ預期スル所ニ違ハサルヲ諒知スルニ足ルベシ

第三月三十一日ニ終ル一週年間ノ收稅額

賣藥人	千八百六十一年	千八百六十九年
當商	五、三八四磅	六、八四二磅
金銀細工人	二六、五一二磅	三三、〇六七磅
	二〇、八五七磅	二九、七一六磅

呼賣人

三七、六二四磅

五二、〇九五磅

總計

九〇、三七七磅

一二一、七〇二磅

此比較表ヲ參觀スルニ當リ讀者ハ必ズ呼賣人ノ免許稅ハ千八百六十一年第七月ヲ以テ著ク其率ヲ減シ千八百六十二年ニ至テハ一種ノ呼賣人ノ為メニ更ニ一層ノ稅率ヲ減却シタル事ヲ記臆セサル可ラス蓋シ方今ノ稅率ハ千八百六十四年ヲ以テ改正スル者ニシテ之ヲ千八百六十一年間ニ比スレハ英蘇二國於テハ殆ト其一半ヲ減スルモ愛爾蘭ニ於テハ前後曾テ増減スルヲ無シ

夫愛爾蘭ノ稅率ハ之ヲ英蘇ノ二國ニ比スルニ稍減スル所アリト雖昨午間ニ於テ免許狀ヲ請フ者ハ僅ニ百二十二名ニ過キス而シテ今之ヲ英倫ノ一萬九千零六十四名ト蘇格蘭ノ千五百五十四名トニ對照シ来ラハ誰カ其數ニ甚タ尠キヲ怪マサラシ



今ヤ呼賣人ハ半額ノ税ヲ納メテ半年間ノ免許状ヲ請フヲ得ヘ  
シ  
從來ノ金銀細工免許法令ニ據ルニ免許状ハ一字ノ店舗ノ為ノ  
ニ必ラス一枚ヲ請ハサル可ラサル乎將タ一名若クハ數名ニテ  
數字ノ店舗ヲ有スルモ一枚ノ免許状ニテ足レリトスル乎ニ就  
テハ文義曖昧ニシテ疑難ヲ生スル無キ能ハス依テ維多利亞第  
九十章第三十及三十一款ヲ以テ金銀細工ノ免許状ハ一字ノ  
店舗ノ為メニ必ス一枚ヲ請ハサル可ラサルヲ令セリ憶ニ曰  
法ノ精神モ亦決シテ之レニ外ナラサルヘシ

貸家周旋人免許税之事

千八百六十一年始メテ貸家周旋人即チ估價者ニ非ス又糶賣人  
ニ非スシテ一箇年ノ貸料十五磅以上ノ住居付家屋ノ貸借ヲ周

旋スル者ニ課スルニ二磅ノ免許税ヲ以テシ從來印稅局ノ主管  
ナリシヲ千八百六十四年ニ至リ他ノ免許税ヲ併セテ之ヲ國產  
稅局ノ所轄ニ歸セリ蓋シ該免許税ハ素ト估價者ニ在ラサル者  
ニ付與スル所ナリト雖凡之ヲ以テ貸家周旋人及ヒ估價者ニ兼  
用スルカ故ニ其貸家周旋人トシ營業スル者ノミノ人員ハ幾許  
ナルヤヲ詳悉スルニ由ナシ然レ凡從前估價者免許状トシテ付  
與スル所ノ數ニ比スレハ新稅即チ貸家周旋人免許税ヲ賦課スル以來估價  
者及ヒ貸屋周旋人免許状トシテ付與スル所ノ數甚タ多キニ居ル  
カ故ニ今之ヲ兼除シテ剩ル所ノ數即チ千五百名ハ貸家周旋人  
トシテ納稅スル者ナト云ハサル可ラス

狩獵免許税ノ事

該稅ハ千七百八十四年ニ始メテ印紙ヲ以テ英蘇ノ二國ニ施行シ  
當時狩獵人ニハ二磅二司令ヲ課シ獵獸看守人ニハ十司令六磅



尼ヲ課セシカ千七百九十一年ニ至テ其率ヲ増加シ又千八百  
年ニ於テハ之ヲアツセシメテ稅局ノ管理ニ歸セリ其後千八百十  
二年ニ至リ獵犬及ヒ銃器ヲ以テ狩獵スル者ノ稅ヲ三磅十三司  
令六邊尼ト為シ又獵獸看守人ニシテ狩獵ニ干與スル者ノ稅ヲ  
一磅二司令ト為セシカ千八百三十一年ニ及テハ更ニ獵獸ヲ販  
賣スル者ニ二磅ノ稅ヲ課セリ

千八百六十年ニ於テ該稅ヲ國產稅局ノ管理ニ歸スル迄ハ敢テ  
稅率ニ變更スル所ナカリシカ此年ニ至テ一週年間ノ狩獵免許  
稅ヲ三磅トシ第四月乃至第十月三十一日間及ヒ第十一月一日  
乃至第四月間ノ稅ヲ二磅トシ其獵獸看守人一週年間ノ免許稅  
ト獵獸販賣免許稅ノ如キハ各々二磅トセリ

愛爾蘭ニ於テハ始メ印紙ヲ以テ課稅シ其大猷列顛國ニ聯合ス  
ルノ時ニ當テハ其稅率ニ磅五司令六邊尼ナリシカ千八百十六

年ニ至テ獵獸看守人ナルト否トヲ問ハス狩獵人ノ稅ヲ三磅三  
司令ニ増加シ後チ千八百四十二年ニ於テハ印稅局ノ所轄ヲ改  
メテ國產稅局ニ歸シ千八百四十二年ニ及ンテ始メテ英蘇愛ノ  
三國ノ稅率ヲ畫一セリ

既ニ閣下ノ諒知セラル、カ如ク狩獵免許狀ヲ請フ者ヲシテ必  
ス自ラ住スル所ノ區内ニ於テセシムルノ法ヲ廢スルノ後ハ免  
許狀持主ノ姓名ヲ地方ノ新聞紙ニ載セテ公告スルヲ止メ更  
ニ人名録ヲ印刷シテ各大區ノ官吏ニ頒布シ以テ監視ノ便ニ供  
シ或ハ他人ノ請求ヲ俟テ之ヲ授與スルヲ茲ニ數年ニ至リシカ  
為メニ本寮ノ經費ヲ削減スルヤ毎年三千磅ニ下ラス而シテ其  
政府ノ歲入ヲ保護スルノ點ニ於テハ曾テ前後ノ差異アルヲ見  
サルナリ

又本寮ニ於テハ更ニ從來狩獵免許狀持主ノ姓名ヲ各大區ニ分



テ印刷スルヲ止メ普子ク全國內ニ通シキ人名録一部ヲ製シ  
テ倫敦ノ印刷人ニ付シテ行セシメ無代價ニテ之ヲ公立學校  
會社書籍館及ヒ其他人民輻湊ノ場所ニ頒布スト雖此之ヲ施行  
スルハ千八百六十九年第十月以降ニ係ルヲ以テ未タ其結果ノ  
功驗如何ヲ開陳スルニ由ナシ

千八百六十一年第三月三十一日ニ終ル年度間ハ狩獵免許稅ノ  
管理ヲ國產稅局ニ歸シ且其稅率ヲ減却スルノ時ニシテ收入額  
八十二萬九千八百四十一磅ニ至リ尋テ千八百六十九年第三月  
三十一日ニ終ル年度ニ於テハ十六萬八千四百四十八磅ノ收入  
額ニシテ即チ三割ヲ增加スルカ故ニ寔ニ滿意スルニ足ルカ如  
シト雖此細カニ其情況ヲ察スレハ稅計ヲ計ル者比々トシテ相  
續キ實ニ上等社會ノ人民ニシテ免許狀ヲ有セスシテ狩獵スル  
ニ至ル蓋シ免許狀ヲ有セスシテ狩獵スル者ハ獵獸盜ヲ以テ論

スル法律ノアルアトハ本寮ニ於テハ敢テ之カ監視ヲ怠ラスト  
雖此其罪犯ヲ證明シテ告發スルニ至ルハ實ニ甚タ稀ナリトス  
養犬免許稅ノ事

該稅ハ素ト「アツセスト」稅局ノ管理ナリシカ千八百六十七年第三  
三月ヲ以テ國產稅局ノ所轄ニ歸シ且「第一」従前ノ養犬稅十二司  
令ヲ減シテ五司令ト爲シ「第二」牛羊家畜ノ看守驅逐ニ使用スル  
家犬ノ稅ヲ免除スルノ法ヲ廢シ「第三」從來收稅中區ノ官吏ヲシ  
テ新タニ吏員ヲ命シテ收稅セシムルノ制ヲ廢シテ更ニ國產稅  
局ニ於テ養犬免許狀ヲ付與シ以テ該稅ヲ收入セシメタリ而シ  
テ一方ニ於テハ該稅ノ收入額ヲ增多スルヲ致シ又一方ニ於テ  
ハ嘗テ本寮ニ於テ養犬稅ニ關スル「アツセスト」稅法ノ其功ヲ奏  
スルニ足ラサル「アツセスト」開陳ノ果シテ其言ノ証ヒサルニ  
至リシハ蓋シ第三項ノ改世ニ依テ其「アツセスト」知ル



此改革ニ就テ直接ノ結果ト其結果トニ至ルニ至ル迄ノ沿革ハ本報第十一年報書十六七六年中ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ抄録ス

千八百六十七年ノ八月間ニ於テ課税シタル養犬ノ數ハ千八百六十六年間ヨリ増加スルヲ四十万頭ニ至ルノ情状ハ姑ク措テ論セス曩ニ小區稅吏カ管内ノ事情ニ詳ナルノ故ヲ以テ偏ニ之ヲ信依タルモ今ヤ稅法ノ改變ニ過テ遽ニ課税ノ養犬數百千頭ヲ增多スルニ至ルハ畢竟小區稅吏ノ不注意ニ依テ脱税セルカ為メナリト云ハサル可ラス然ハ則チ該稅吏ハ豈ニ其責ヲ免ルヲ得ヘケンヤ良シヤ稅吏ノ罪ハ猶宥恕スヘキモアツセスト稅法ノ不良ナルハ決シテ掩フ可ラス而シテ曩ニ本寮ニ於テ此事ニ就キ屢々痛論シタルハ蓋シ茲ニ見ル所アレハナリ夫養犬免許稅ノ收入ニ就テ今日ノ結果ヲ呈スルニ至リシハ全

國ヲ舉リ地方巡查ノ功大ニ預テカアルニ拘ラス其所謂結果ナル者ハ唯一部ノ成功ニシテ猶課税スルニ足ルヘキノ養犬アルヲ知ル然リト雖モ原來此種ノ稅ヲ免許狀ニ依テ賦課スルハ全ク新設ノ制ニ係ルヲ以テ始メヨリ完全ノ域ニ至ラサルハ固ヨリ怪ムニ足ラサルナリ

養犬稅率ノ未ダ減セスシテ猶「アツセス」稅局ニ屬スルノ末年ニ當テヤ其課税セル養犬ノ數ハ僅ニ三十九万四千八百三十七頭ナリシカ千八百六十七年第四月六日乃至第十二月三十一日ノ稅法改革後ハ遽ニ増加シテ八十二万八千三百四十一頭ト成リ千八百六十八年第十二月三十一日ニ終ル一週年間ニ於テハ更ニ増加シテ九十万七千四百八十八頭ニ至リ又千八百六十九年第十二月三十一日ニ終ル一週年間ニハ百万七千三百四十一頭ノ多キニ及ヘリ



贗造品

烟草

本寮ニ於テハ帝ニ烟草ノ製造販賣上ノ免許稅ヲ課スルノミナ  
ラス尚之カ贗造ヲ防クノ責任ヲ有ス故ニ本寮精鍊室ニ於テハ  
恒ニ老練ナル化學者ヲ備ヘサル可ラス

烟草ノ贗造ニ使用スルニ足ルヘキ者其種類甚タ多ク隨テ之ヲ  
行ハント欲スルノ徒モ亦極メテ多シ故ニ能ク此等ノ所為ヲ預  
防シテ救稅ノ損害ナカラシムルハ特リ監督ノ功ト堪忍ノ力ト  
ニ在ルノミ

通常烟草ノ中ニ含有スル混和物ハ各種ノ木葉砂糖甘草澱粉漆  
料護膜及ヒ無機鹽等ナリ蓋シ木葉ノ如キハ既ニ顯微鏡ノ力ヲ  
假テ之カ贗造ヲ防クニ足リ又護膜及ヒ無機  
多キニ至レハ自ラ烟草ノ質余ヲ害  
ハ之ヲ混和スルノ  
今ヤ使用スル者



甚々勤シト雖氏砂糖甘草澱粉及ヒ  
草ノ二品ニ至テハ帝ニ烟草ノ質分ヲ害  
ルノミナラス却テ  
之カ香味ヲ變シ内地人民ノ嗜好スル外國製ノ「カウエインヂ」烟  
草ニ擬セシムルノ益アルヲ以テ製造者ノ之ヲ使用スルヤ甚々  
多シトス

本寮ニ於テ曾テ澱粉及ヒ砂糖ノ混和スル者ヲ探検査出セシ事  
アリ今其顛末ヲ記センニ千八百六十八年ノ初ニ當リ愛爾蘭ノ  
烟草製造者カ極メテ廉價ノ巻烟草ヲ英倫ノ卸賣人ニ賣却セシ  
ヲ報知シ併セテ其貨辨ヲ贈ル者アリ依テ本寮ニ於テハ頭微  
鏡ノカト化學ノ試験トニ依テ細ニ之ヲ検査シ始メテ水葉ニ澱  
粉ヲ塗抹シテ色ヲ加ヘ以テ烟草ニ擬シタルヲ看破シ得タリ  
是ニ於テ直ニ收稅吏員ヲ愛爾蘭ニ派出シ貯蓄品ヲ探檢セシメ  
タルニ吏員ハ是等ノ製造者六名ヲ搜索シテ實造烟草二万八千

封度余ヲ沒收シ猶英倫ノ卸賣人二十六名ト蘇格蘭ノ卸賣人六  
名ヲ併セテ殆ト四千封度ノ實造烟草ヲ貯藏スルヲ檢出シタ  
リ  
既ニ如斯實製烟草ヲ沒收シタレ氏本寮ニ於テハ更ニ連累人ヲ  
告發スルヲ理ノ當然ナリトシ之ヲ地方裁判所ニ訴ヘタリ將  
タ此等ノ連累人ニ依テ收ムル所ノ贖罪金ハ千二百六十七磅十  
司令ニシテ沒收品ノ價直ヲ算セハ大約四千磅ニ至ルヘシト思  
ハル

### 嗅烟草

通常嗅烟草ニ混和スル者ハ木灰澱粉、赭石、泥炭、菜石灰ノ類ニシ  
テ既中鉛黃ヲ混和スルカ如キハ人生ニ害アルニ拘ラス今ヲ距  
ル十五年前以降ニ在テハ木灰之ヲ檢出  
ニ於テ盛ニ混和物ヲ使  
ルハ特  
ニ止リシカ遠ニ



其使用ヲ仰制スルヲ得  
明カニ法律ノ許ス所ナリ  
雖ニ其使  
石灰水ノ使用ハ  
為メニ石灰水ノ使用ヲ口實トシテ竊ニ溶解セサル石灰ヲ混和  
スルモグアレハナリ故ニ千八百六十七年ニ於テハ此法律ヲ追  
加シテ石灰及ヒ麻砥<sup>ニ</sup>矢<sup>レ</sup>亞<sup>ア</sup>ノ使用ヲ一割三分ニ限レリ而シテ  
此時以來ハ未ダ曾テ喫烟草中ニ過量ノ石灰ヲ混和スル者アル  
ヲ見ス

茶

夫各種ノ食品中贗造ノ多キハ製茶ニ若ク者ナク其茶稅減免以  
降ハ頗ル此弊害ヲ洗滌シタリト雖<sup>レ</sup>氏今日ニ至ル迄未ダ全ク之  
ヲ撲滅スルニ至ラス而シテ茶稅ハ原來關稅局ノ管理ニ屬シ賣  
茶免許稅廢止以來ハ敢テ本寮ノ預リ知ル所ニ非ルヲ以テ其實  
造ヲ探檢シ得ルハ此偶然ノ事タルニ過キサルノミ

製茶ノ贗造ハ多クハ之ヲ輸入スルノ前ニ就リ關稅局官吏ハ實  
ニ其品種ノ贗造ニ出タルヲ知ルト雖<sup>レ</sup>氏既ニ海關稅ヲ收納スル  
以上ハ之カ輸入ヲ拒絶スルノ權ヲ有セサルカ故ニ良シヤ本寮  
ニ付與スルニ如斯贗製茶ノ販賣ヲ禁止スルノ權ヲ以テスルモ  
果シテ能ク其責任ヲ盡スヲ得ル乎否ハ未ダ今日ニ知ル可ラサ  
ルナリ然リト雖<sup>レ</sup>氏若シ輸入前ニ就ルノ贗造ヲ指テ問ハサルニ  
付セハ其弊益甚シキニ至ルヘシ  
支那人カ製茶ヲ贗造スルヤ其使用ノ物質ハ蓋シ一ニシテ豆ヲ  
ス綠茶ニハ護謨、藍靛、字靛<sup>ニ</sup>リツク酸等ヲ混和シ黑茶ニハ細條  
或ハ黑鉛ヲ以テ着色シタル細末ノ水晶片ヲ混和ス又内地ニ在  
テハ各種ノ樹葉ヲ乾燥シテ綠茶、黑茶ニ擬シ或ハ既ニ煎煮シタ  
ル茶葉ヲ曝シテ之ニ着色スル者ナキ  
内地ニ於テ製茶ノ贗造  
其弊消ヲ減却



ル及ヘリ是ニ於テ卒  
製茶ノ質造ヲ禁止シ次ニ意再ニ二世  
リ共條款ニ曰ク今ヤ不良ノ徒烏荊子葉、甘棠葉ヲ以テ製茶ヲ擬  
シ或ハ既ニ煎煮シタル茶葉ヲ曝シ或ハ樹葉ヲ乾燥シテ製茶ニ  
カヘ以テ其秤量ヲ增多シ或ハ是等ノ質造品ニ阿仙藥、砂糖、糖蜜  
粘土等ヲ混和シ或ハ蘇木ヲ以テ着色スルアリ云云ト然ルニ意  
尔日三世ノ時ニ及ンテハ質造ノ弊害益々甚シク殆ント其極ニ  
至ルヲ以テ更ニ又製茶ノ質造ヲ禁止スルノ法令ヲ制定セリ其  
文ニ曰ク今ヤ烏荊子葉、トウリウ、トウリウ、接骨木葉及ヒ其他ノ樹葉ヲ乾燥  
シテ製茶ニ擬スルノ弊害日一日ヨリ增多ス而シテ如斯ハ大ニ  
樹木ノ生育ヲ害シ邦内人民ノ健康ヲ傷リ政府ノ歳入ヲ減却シ  
又直實ノ高價ヲ傾倒シテ懶惰ノ風ヲ鼓舞スルニ至ルヘキカ故  
ニ云云ト此ニ依テ之ヲ觀ルニ製茶ノ質造ハ實ニ此時ヲ以テ其

極度ニ達セリト云、サル可ラス  
然ルニ後世學術ノ進步スルニ從テハ製茶質造ノ為メニ復タ英  
倫ノ樹木ノ生育ヲ害スルニ至ラス曩時ニハ支那ノ製茶ニ代ル  
ニ國內ノ樹葉ヲ以テシ其製法極メテ粗造ナリシモ今ヤ屑茶ニ  
顔料ヲ添メテ製茶ノ觀ヲ為サシメ即チ字號及ヒ護謨ヲ以テ黒  
茶ニ着色シ以テ緑茶ニ擬スルハ實ニ無害ノ所為ナリトシ内地  
ノ茶商ニシテ之ヲ行ハサル者ナキニ至レリ然リト雖氏其自認  
スル所ハ無害タリ有害タルニ拘ラス其所為ハ即チ質造ニ出ル  
カ固ヨリ疑ヲ容ル可ラス曾テ茶商等ハ本寮ニ書牘ヲ呈シテ夫  
黒茶ヲ以テ緑茶茶ト為スハ國法ニ抵觸スル所アル乎苟モ之ニ  
抵觸ストハ余等ハ直ニ其製造ヲ廢セサル可ラス然リト雖氏  
若シ貴官ニシテ國法ニ抵觸スルナリ  
即チ誤解スルノ  
ラス何トナレハ



斯ハ 為メニ最モ

也ト云ヘリ是ヲ以テ本寮ニ於テハ

主トセサル可ラサルニ拘ラス之ニ答フルニ是下等ノ所為ハ國

法ノ外ニ規則ニ抵觸スル所アリトノ數言ヲ以テセリ

當時黑茶變製ノ事ニ就テ茶商等ハ如何ナル感觸ヲ提起セシ乎

ハ本寮ニ呈スル所ノ書牘ヲ以テ瞭然ナリトス依テ茲ニ其全文

ヲ掲ク

千八百六十二年第四月二十九日倫敦ニ於テ

本年ノ製茶期ニ於テハ黑茶ノ供給餘アリト雖氏綠茶ニ至テハ

甚タ欲シセリ依テ貴官ヲ煩シテ左ノ條款ヲ實ス莫クハ回答セ

ラレンコトヲ

黑茶ニ着色シテ綠茶ト為シ或ハ綠茶ニ着色シテ黑茶ト為スハ

敢テ法律ニ抵觸スル所ナキ乎但斯ク着色スルトテ更ニ其秤量

ヲ増サス又如斯ノ如クハ既ニ納稅セル者タルコトハ辨ヲ俟タスニ  
テ明矣

茶 高 某 領 首

内國稅理事長官閣下

近頃千八百六十九年本寮ニ於テハ下等人民カ製茶ノ為メニ端  
着セラレ、意ヲ查出シテ憫然ニ堪ヘス今ヤ之ヲ本寮ノ會議ニ  
付セリ茲ニ其顛末ヲ釋ヌルニ從來倫敦ノ或ル船槽會社ハ製茶  
ヲ倉庫ニ搬運スルニ一定ノ雇夫ニ傭金ヲ與ヘテ其跡ヲ掃除セ  
シメタ 今ヤ然ラス傭人ハ却テ代價ヲ納メテ其塵芥ヲ受領  
スルニ至レリ是他ニ非ス彼ノ塵芥ヲ淘汰シテ不潔ノ製茶ヲ拾  
收シ芬茶ノ名称ヲ付シテ一封装ニ  
乃至、司今、四邊尼  
ノ價 賣却スルヲ  
本寮精製室ニ



テハ  
ヲ得タリ  
ルプ氏ヲシ

タルニ左ノ報

第一回分析

一封産 廿八邊尼ニテ購入シタル芥茶ハ紛茶細末ノ粉屑及  
ヒ少量ノ澱粉ト二割四分三厘九毛ノ砂トヲ含有ス  
一封産ニ付一司令ニテ購入シタル芥茶ハ紛茶粉屑及ヒ少量  
ノ澱粉ト一割九厘二毛ノ砂トヲ含有ス  
一封産ニ付一司令四邊尼ニ購入シタル芥茶ハ緑黒茶及ヒ少  
量ノ木屑ト九分六厘九毛ノ砂トヲ含有ス

第二回分析

第一ノ貨辨ニ於テハ茶葉六割樺木及ヒ其他ノ木屑一割二分  
石灰及ヒ釘片二割ニシテ其餘ハ悉ク無機物及ヒ昆蟲ノ類ヲ  
含有ス

第二ノ貨辨ハ細粉ノ無機物三割一分ニシテ其中三分七厘九  
毛ヲ酸化銻トシ又茶葉ニ非ル有機物ハ二割ニ下ラサルカ故  
ニ純萃ノ茶葉ハ僅ニ四割九分ヲ含有スルノミ

第三ノ貨辨ハ酸化銻一割三分七厘九毛木屑一割二分一厘六  
毛銻ニ非ル無機物ハ一割二分三厘八毛又他ノ不潔物ヲ含有  
ス且此貨辨ハ腐敗シテ臭氣ヲ發シ夥多ノ死蟲アルヲ查出シ  
タリ

農業及牧畜ニ関スル統計ノ事

千八百六十八年勸商局ノ依頼ニ應ジテ國産稅局及ヒ地租局等  
ノ官吏ヲシテ英蘇二國ノ畜類及ヒ穀物ノ統計表ヲ纂輯セシメ  
シカ此事タルヤ頗ル重大ノ件ニ爲ス  
官吏ヲ信依セシムルニ  
商局ヲ滿意セシメ又該



是ルヘキノ域ニ至リ其

トシテ之カ統計表ヲ纂輯

ルモ特リ國産税局検査官ノミ之ヲ擔當セシメリ  
夫政府ハ如斯統計表ヲ得ント欲スルニ當リ英倫ノ地主カ耕地  
ノ坪數ヲ報告スルヲ拒ミ或ハ之ヲ固辞スルカ為メ多少ノ困難  
ヲ生セリ然リト雖氏本寮ニ於テハ其何ノ故タルヲ審スル能ハ  
ス況ンヤ英倫ニ於テハ既ニ此情状ナルモ蘇格蘭ニ於テ之ナキ  
ニ於テヲヤ



